

2016年度 社会福祉法人麦の子会事業報告 【要約版】

目次

はじめに	2
1. 法人運営	4
 【児童部門】	
2. むぎのこ児童発達支援センター	10
3. 保育所等訪問支援	15
4-1. 児童デイサービスむぎのこ（児童発達支援事業）	15
4-2 児童デイサービスむぎのこ 重心児クラス	16
5. プレイ（児童発達支援事業）	17
6. ヨシア（児童発達支援事業）	18
7. シーランチ（児童発達支援事業）	18
8. セーボネス（児童発達支援）	19
9. スタディ（児童発達支援事業）	20
10. ライオン（児童発達支援事業）	21
11. むぎのこ大通教室（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）	21
12. 児童デイサービスむぎのこ（放課後等デイサービス）	22
13. 児童デイサービスジャンプレッツ（放課後等デイサービス事業）	23
14. プレイ（放課後等デイサービス）	24
15. ライオン（放課後等デイサービス）	24
16. ヨシア（放課後等デイサービス）	25
17. シーランチ（放課後等デイサービス）	26
18. ヨシア（チェリーブロッサム）放課後等デイサービス	27
19. ヨシア（スカイブルー）放課後等デイサービス	27
20. ヨシア（トゥモロー）放課後等デイサービス	28
21. ヨシア（グリーン）放課後等デイサービス	29
22. 野の花（放課後等デイサービス）	30
23. ヨシア（野の花・第3単位）放課後等デイサービス	31
24. 日中一時支援事業むぎのこ	31
25. 日中一時支援事業ヨシア	32
26. 日中一時支援事業スタディ	32
27. 日中一時支援事業 セーボネス	33
28. ショートステイホームむぎのこ	33
29. ショートステイホームピース	34
30. セーボネス保育園	34
31. むぎのこ保育園	35
 【成人部門】	
32. ジャンプレッツ（就労移行）	36
33. ジャンプレッツ（生活介護）	36
34. ハーベストガーデン（生活介護）	37
35. ホワイトハウス（共同生活援助）	38
 【家庭養護】	
36. ガブリエルホーム	38
37. ベーテルホーム	39
 【その他】	
38. 居宅介護事業所 むぎのこ	40
39. むぎのこ子ども相談室	41
40. 相談室セーボネス	42
41. むぎのこ発達クリニック	43
42. 札幌市障がい児等療育支援事業	48
43. 当別町子ども発達支援センター発達支援専門職員派遣業務	48
44. 当別町職員指導業務	48

はじめに

2016年は社会福祉法人麦の子会が法人として認可されて、丁度20年目の節目の年となりました。無認可時代5人子どもの通園から始まった麦の子会も今は、約700名近い利用者の方々、正職、パート職員を合わせて約500名の法人へと成長しました。その間、措置制度から契約制度へと大きな制度の転換点を迎えましたが、契約制度以後事業所数も、利用者数も急激に増えていきました。創設以来のミッションにより、制度があるなしに関わらず、お子さんや、保護者の方への真摯な支援を重ねてきた結果が着実に実ってきていると感じます。

麦の子会には全国から見学者も多く、利用する子どもも大人も地域で生き生きと暮らしていることに驚かれ、外部からの客観的な感想に報われることも多々あります。

今後も社会福祉法人麦の子会は、法人の理念と熱意を核として、各自の弱さを自覚しながらも互いの弱さを補いあう「チーム麦の子会」として、多くの大人と職員で、困り感のある子どもやご家族、利用者の方々を支援していきたいと思えます。

2016年度の法人の主な動き

① 2016年度の重点目標

今年度は以下の項目を重点目標に掲げました。

1. 子ども、利用者の方、家族を大切にする。
2. 独自能力(各自一生懸命仕事にうちこみ、プロを目指す)
3. 職員重視(職員育成の充実と、職員の幸せ)
4. 職場での人間関係(CSPを基本とした社会スキルを身に付け、組織人として働く)
5. 地域への貢献－協同の福祉(関係機関と連携し、地域貢献も欠かさない)
6. マナー＋心＝ホスピタリティ(誰にたいしても気持ちの良い対応)

特に、CSPの取り組みは法人としても4年目となり、もともと不適切な関わりの防止、肯定的な子どもへの関わりのために取り組んだものが、職員に対する社会スキルの教育ともなり(指示に従う、助けを求め、許可を得る、いいえを受け入れる、落ち着く、他の人と話す。)職場としてスムーズな人間関係や、組織としての指示系統の確立など、大変有益な取り組みとなっています。

また、CSPに基づく個人記録のシステムを導入し、職員の働きかけが明確にわかるような記録を行えるようにしました。

また、CSP プログラムの養成講座講師として、北海道内をメインに上級資格を取得した職員が、札幌のみならず北海道の困っている方々への地域貢献としてプログラム指導へ巡業しました。

② 新規事業

○むぎのこ大通教室(児童発達支援事業・放課後等デイサービス)

街の中心部、大通公園に、児童発達支援事業・放課後等デイサービスを運営する、「むぎのこ大

通教室」を6月1日開設しました。これまで東区中心に運営を行っていましたが、街に通う親御さんやお子さんのニーズが見込まれたために、開所に踏み切りました。

当初利用人数は少数でしたが、3～4ヶ月後にはほぼ定員10名の利用があり以後も継続しています。

○グループホーム「サンタローザ」

麦の子会が既に運営しているグループホーム「オリーブ」から徒歩20秒の、立地条件の良い場所にグループホーム「サンタローザ」が12月1日より開設しました。現在女性4名が暮らしています。障害の重い方々の利用でしたが、予想を超えて落ち着いた生活を送って頂いており、改めて「生活」そのものと「心の落ち着きや豊かさ」との関連に驚かされています。

③社会福祉制度改革への対応

平成29年度からの社会福祉法改正により、運営組織体制が大きく変わります。そのための取り組みを早めの時期より準備を進めてきました。新年度からの評議員の選任は無事各評議員の方々に了承いただき、評議員選任解任委員会で選任が決議されました。

平成29年6月24日に定時評議員会を開催し、平成28年度の決算承認と、理事の選任を頂く予定です。定款の認可申請も受理通知書を平成28年12月28日受理しています。

④今後の展望と課題

「はじめに」で述べたように、利用者数、職員数が増加の一途を辿っています。麦の子会の取り組みが多くの人々の助けとなっていることは嬉しいことではありますが、それに伴い社会的責任も益々重く大きくなってきています。組織運営の安定化、財務会計の安定化、人材の確保と教育など、解決すべき課題は社会的責任の分だけ大きくなってきています。お子さんやご家族、利用者の皆さんに対する支援は、利用者の増加ということで評価されていると考えてもよいかもしれませんが、しかし、むぎのご創設期から続いてきたミッションをどう組織として安定的に持続的に長期的に働かせていくかというのが近年の大きな課題となっています。

1.法人運営

1. 理事会・評議員会の開催及び監事監査の実施

(1) 役員構成

- ① 理事：田村 元（理事長）、長内慶一郎、田澤泰明、宮脇一
北川聡子、古家好恵
- ② 監事：末永仁宏、向谷地生良
- ③ 評議員：岩村史織 長内慶一郎、金田光夫、北川聡子、相馬述之、高田隆一、
田澤泰明、田村 元、寺嶋仁志、古家好恵、三塚勇太、光増昌久、
山崎千恵美

(2) 理事会の開催

① 第1回理事会（2015年5月19日（木））

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回理事会日程の件
- (4) 2015（平成27）年度 事業報告承認の件
- (5) 2015（平成27）年度 決算報告承認の件
- (6) 定款変更の件
- (7) 監事監査報告の件
- (8) 就業規則規及び給与規程改正の件
- (9) 新規グループホーム用地・建物取得の件
- (10) ジャンプレッツ（就労移行支援）の工賃適正額検討の件
- (11) 実費弁償費変更及びそれに伴う役員等報酬規程変更の件
- (12) 企業主導型保育事業助成申込の件
- (13) 運営規程一部変更の件
- (14) 重要事項説明書一部変更の件
- (15) 大友福祉財団助成金申請の件
- (16) 24時間テレビ福祉車両寄贈申込の件
- (17) 法人内の奨学金及び研修・資格取得の助成について

イ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
- 5) むぎのこ大通教室進捗状況 6) 本部基幹業務用ソフトウェア(ほのぼの)の更新と長期的なシステム検討について 7) 旧八雲町立黒岩小学校の利用について

② 第1回臨時理事会（6月27日（月））

ア. 審議事項

- (1) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」（住居ホワイトハウス）大規模修繕（スプリンクラー整備）事業に係る入札の件
- (2) むぎのこ保育園新設の件
- (3) むぎのこ保育園新設に伴う規程類の件
- (4) サテライト型住居（アンサテライト）付設の件
- (5) アンサテライト付設に伴う運営規程変更の件の件
- (6) 経理規定変更の件
- (7) 給与規程一部改正の件
- (8) 運営規程一部変更の件
- (9) 重要事項説明書一部変更の件
- (10) 社会福祉法人松の花基金 助成金申請の件
- (11) 次回理事会日程の件

③ 第2回臨時理事会（7月29日（金））

ア. 審議事項

- (1) 共同生活援助事業所「ホワイトハウス」（住居ホワイトハウス）大規模修繕（スプリンクラー整備）事業に係る入札結果承認の件

④ 第2回理事会（8月26日（金））

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回理事会日程の件
- (4) 社会福祉制度改革による定款変更方針の件
- (5) 定款変更の件
- (6) 講師謝礼規定制定の件
- (7) 管理者変更の件
- (8) 居宅介護事業所むぎのこ福祉有償運送金額設定の件
- (9) C S P管理者の講師業務を公職兼務とする件
- (10) ベーテルホーム居室変更申請の件
- (11) 運営規程一部改定の件
- (12) 重要事項説明書一部改定の件
- (13) 経理規程変更の件

イ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 臨時理事会報告 4) 理事長専決事項報告 5) 人事報告
- 6) 会計報告 7) 監事監査報告

⑤ 第3回理事会（11月29日（火））

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回理事会日程の件
- (4) 社会福祉制度改革による定款変更と定款変更認可申請の件
- (5) 札幌市指導監査実施結果報告書の件
- (6) 2016年度第1次補正予算の件
- (7) 給与規程一部変更の件
- (8) パートタイム給与規程一部改正の件
- (9) 育児・介護休業等に関する規則改正の件
- (10) 建設積立金取崩しの件
- (11) 日本の子どもの未来を考える研究会旅費・謝礼規程制定の件
- (12) 運営規程一部改定の件
- (13) 重要事項説明書一部改定の件
- (14) 共同募金補助金申請の件
- (15) グループホーム用土地建物に関する定款変更及び担保提供承認の件

イ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告 5) 会計報告
- 6) 監事監査報告

⑥ 第3回臨時理事会（1月25日（水））

ア. 審議事項

- (1) 評議員選任・解任委員会運営規程制定の件
- (2) 評議員選任・解任委員選任の件
- (3) 新評議員候補者選任の件
- (4) 「共同生活援助ホワイトハウス住居ダニエル」スプリンクラー整備補助申請の件
- (5) 「短期入所ショートステイホームむぎのこ」スプリンクラー整備補助申請の件

⑦ 第4回理事会（3月24日（金））

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 2017年度事業計画の件
- (4) 2016年度第2次補正予算（案）の件
- (5) 2017年度予算の件
- (6) むぎのこ合同ビル（仮称）借上計画の件
- (7) サテライト型住居付設の件
- (8) 管理者異動の件

- (9) 事業所に関する変更の件
- (10) 諸規程改定の件
- (11) 運営規程及び重要事項説明書一部改定の件
- (12) 職務専念の義務免除の件
- (13) 当別町子ども発達支援センター専門職員指導業務委託に係る見積合わせ応諾の件
- (14) 次回理事会日程の件

イ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告 5) 会計報告
- 6) 監事監査報告

(3) 評議員会の開催

① 第1回評議員会 (5月19日(木))

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回評議員会日程の件

イ. 諮問事項

- (1) 2015(平成27)年度 事業報告の件
- (2) 2015(平成27)年度 決算報告の件
- (3) 定款変更の件
- (4) 監事監査報告の件
- (5) 就業規則規及び給与規程改正の件
- (6) 新規グループホーム用地・建物取得の件
- (7) ジャンプレッツ(就労移行支援)の工賃適正額検討の件
- (8) 実費弁償費変更及びそれに伴う役員等報酬規程変更の件
- (9) 企業主導型保育事業助成申込の件
- (10) 運営規程一部変更の件
- (11) 重要事項説明書一部変更の件
- (12) 大友福祉財団助成金申請の件
- (13) 24時間テレビ福祉車両寄贈申込の件

ウ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項 4) 人事報告 5) むぎのこ大通教室進捗状況 6) 本部基幹業務用ソフトウェア(ほのぼの)の更新と長期的なシステム検討について 7) 旧八雲町立黒岩小学校の利用について

② 第2回評議員会 (2016年8月26日(金))

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回評議員会日程の件

イ. 諮問事項

- (1) 議事録署名人選任の件
- (2) 前回議事録承認の件
- (3) 次回評議員会日程の件
- (4) 社会福祉制度改革による定款変更方針の件
- (5) 定款変更の件
- (6) 講師謝礼規定制定の件
- (7) 管理者変更の件
- (8) 居宅介護事業所むぎのこ福祉有償運送金額設定の件
- (9) C S P 管理者の講師業務を公職兼務とする件
- (10) ベーテルホーム居室変更申請の件
- (11) 運営規程一部改定の件
- (12) 重要事項説明書一部改定の件
- (13) 経理規程変更の件

ウ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項 4) 人事報告 5) 会計報告 6) 監事監査報告

③ 第3回評議員会 (2016年11月29日(火))

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
(2) 前回議事録承認の件
(3) 次回評議員会日程の件

イ. 諮問事項

- (1) 社会福祉制度改革による定款変更と定款変更認可申請の件
(2) 札幌市指導監査実施結果報告書の件
(3) 2016年度第1次補正予算の件
(4) 給与規程一部変更の件
(5) パートタイム給与規程一部改正の件
(6) 育児・介護休業等に関する規則改正の件
(7) 建設積立金取崩しの件
(8) 日本の子どもの未来を考える研究会旅費・謝礼規程制定の件
(9) 運営規程一部改定の件
(10) 重要事項説明書一部改定の件
(11) 共同募金補助金申請の件
(12) グループホーム用土地建物に関する定款変更及び担保提供承認の件

ウ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 業務報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告 5) 会計報告 6) 監事監査報告

④ 第4回評議員会 (2017年3月24日(金))

ア. 審議事項

- (1) 議事録署名人選任の件
(2) 前回議事録承認の件
(3) 任期満了に伴う役員選任の件

イ. 諮問事項

- (1) 2017年度事業計画の件
(2) 2016年度第2次補正予算(案)の件
(3) 2017年度予算の件
(4) むぎのこ合同ビル(仮称)借上計画の件
(5) サテライト型住居付設の件
(6) 管理者異動の件
(7) 事業所に関する変更の件
(8) 諸規程改定の件
(9) 運営規程及び重要事項説明書一部改定の件
(10) 職務専念の義務免除の件
(11) 当別町子ども発達支援センター専門職員指導業務委託に係る見積合わせ応諾の件

ウ. 報告事項

- 1) 事業報告 2) 臨時理事会報告 3) 理事長専決事項報告 4) 人事報告
5) 財務報告 6) 監事監査報告

(4) 監査・指導の実施

実施者	監査実施日	監査項目
向谷地生良 監事 末永 仁宏 監事	① 2016年 5月 11日 ② 2016年 8月 18日 ③ 2016年 11月 11日 ④ 2017年 2月 13日	法人定款第11条の規定に基づき、2014年度事業に係る理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況。
札幌市 ・ 監査指導室 ・ 障がい福祉課 ・ 保健所	2016年 7月 7日	・ 法人 ・ むぎのこ児童発達支援センター ・ ジャンプレッツ ・ 児童デイサービスジャンプレッツ

札幌市 (集団指導)	2016年12月13日	障害者自立支援法・児童福祉法による全事業
札幌市児童相談所	2016年3月8日	・ガブリエルホーム

(5) 助成・補助金

受入事業所	交付団体等	助成・補助金内容	金額
児童デイサービスむぎのこ	札幌市	重症心身障がい者受入促進事業	2,000,000
ホワイトハウス	札幌市	札幌市民間社会福祉施設等整備補助金	1,593,000
児童デイサービスむぎのこ	日本財団	車両購入	2,450,000
むぎのこ児童発達支援センター	札幌市	研修会委託費	150,000
ジャンプレッツ	札幌市	施設整備借入金利息補助事業	131,950
法人本部	北海道	経営労務管理改善	86,000
法人本部	高齢障害求職者者 雇用支援機構	雇用促進のため	1,296,000

(6) 主な施設・事業所整備事業

事業所名	工事名	請負業者	工事価格
ホワイトハウス (住居ホワイトハウス)	大規模修繕(スプリングラ ー整備)事業	(株)北海道ニッタンサ ービスセンター	1,593,000

(7) 入札(一般・指名)執行状況

入札名	落札業者名	契約金額
共同生活援助事業所「ホワイトハウス」大規模修繕(スプリ ングラー整備)事業	(株)北海道ニッタンサ ービスセンター	1,593,000

2. 事業運営

(1) 第2種社会福祉事業

- 1) 児童発達支援 むぎのこ児童発達支援センター
- 2) 保育所等訪問支援事業 むぎのこ児童発達支援センター
- 3) 児童発達支援 児童デイサービスむぎのこ
- 4) 放課後等デイサービス 児童デイサービスむぎのこ
- 5) 放課後等デイサービス 児童デイサービスジャンプレッツ
- 6) 児童発達支援事業 プレイ
- 7) 放課後等デイサービス プレイ
- 8) 児童発達支援事業 シーランチ
- 9) 放課後等デイサービス シーランチ
- 10) 児童発達支援事業 ヨシア
- 11) 放課後等デイサービス ヨシア
- 12) 児童発達支援事業 チェリーブロッサム
- 13) 放課後等デイサービス チェリーブロッサム
- 14) 児童発達支援事業 セーボネス
- 15) 児童発達支援事業 ライオン
- 16) 放課後等デイサービス ライオン
- 17) 児童発達支援事業 スタディ
- 18) 放課後等デイサービス スカイブルー
- 19) 放課後等デイサービス 野の花
- 20) 放課後等デイサービス グリーン
- 21) 児童発達支援 むぎのこ大通教室
- 22) 放課後等デイサービス むぎのこ大通教室
- 23) 生活介護 ジャンプレッツ
- 24) 就労移行支援 ジャンプレッツ
- 25) 生活介護 ハーベストガーデン
- 26) 短期入所 ショートステイホームピース
- 27) 短期入所 ショートステイホームむぎのこ
- 28) 居宅介護 むぎのこ
- 29) 重度訪問介護 むぎのこ

- 30) 行動援護 むぎのこ
- 31) 共同生活援助 ホワイトハウス
- 32) 小規模住居型児童養育事業 ガブリエルホーム
- 33) 小規模住居型児童養育事業 ベーテルホーム
- 34) 移動支援 むぎのこ
- 35) 一般相談支援 相談室セーボネス
- 36) 特定相談支援 相談室セーボネス
- 37) 障害児相談支援 相談室セーボネス
- 38) 特定相談支援 むぎのこ子ども相談室
- 39) 障害児相談支援 むぎのこ子ども相談室

(2) 公益事業

- 1) むぎのこ発達クリニック
- 2) 日中一時支援事業 むぎのこ
- 3) 日中一時支援事業 スタディ
- 4) 日中一時支援事業 ヨシア
- 5) 日中一時支援事業 セーボネス
- 6) 札幌市障がい児等療育支援事業
- 7) 札幌市障がい者相談支援事業
- 8) 当別町こども発達支援センター専門職員指導業務
- 9) 当別町こども発達支援センター発達支援専門員派遣業務
- 10) 認可外保育施設 セーボネス保育園
- 11) 企業主導型保育園事業 むぎのこ保育園

2.むぎのこ児童発達支援センター

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	38	41	42	43	45	45	49	52	53	53	53	54	47.3
北区	17	15	16	15	15	15	15	15	15	15	15	16	15.3
西区													
南区													
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区													
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	60	61	63	63	66	66	70	74	75	74	75	77	68.7
前年度	65	68	68	70	71	70	70	72	75	74	73	73	70.7

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	947	1057	1187	1136	1020	1234	1304	1334	1010	1199	1319	1179	13926
前年度	1042	1138	1311	1333	904	1221	1345	1205	1094	1244	1296	1208	14261

2. 支援業務

(1) 個別支援計画の策定

- ・発達支援プランは年2階(4月、10月)に作成した。
- ・遠城寺式・乳幼児分析的発達検査を用いて、アセスメントを行った。
- ・家庭訪問、面接の記録などで保護者にクラスに対しての意向、要望などの聞き取りを行った。
- ・個別支援計画を保護者に個別に説明し、同意を得た。
- ・半年間モニタリングを行い、評価した。

(2) 主な日中活動

- ・リズム、朝の会、散歩散歩、公園遊び(滑り台、ターザンロープ、水運び、水遊びなど)
- ・設定遊び(毛布ブランコ、布乗り遊び、王様、インディアン、音楽遊び)
- ・親子遊び(おんぶ遊び、わらべうた遊び、くすぐり遊び)
- ・山登り、アート(描画、季節の制作)、クッキング、プール、個別指導など

(3) 余暇活動支援(行事・旅行・クラブ活動等)

4月	入園式、お誕生会、カーペンターズ、避難訓練
5月	家庭訪問、お誕生会、クッキング、避難訓練
6月	遠足、バザー、お誕生会、避難訓練
7月	お誕生会、海水浴、避難訓練、クッキング
8月	I期終業式、II期始業式、お誕生会、避難訓練
9月	運動会、お誕生会、避難訓練、クッキング
10月	遠足、お誕生会、避難訓練、カーペンター
11月	お誕生会、生活発表会、避難訓練、クッキング
12月	もちつき、お誕生会、避難訓練、クリスマス会、II期終業式
1月	III期始業式、お正月会、お誕生会、避難訓練、クッキング
2月	豆まき、お誕生会、避難訓練
3月	ひなまつり、卒園感謝会、お誕生会、卒園式、避難訓練、クッキング、終了式・離任式

3. 給食業務

給食提供形態	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1日1食 毎日提供 ・ 園内の調理場にて調理して提供している。 ・ アレルギー食、偏食などに対応した。 ・ 食生活が少しでも豊かな、楽しい時間となるように取り組んだ。 	
給食費	所得区分により負担額が違ふ。	
	生活保護	生活保護受給世帯の方
	低所得	市町村民税非課税世帯方
	一般世帯1	市町村民税課税世帯で、所得割が3.3万円未満の方
		市町村民税課税世帯で、所得割が3.3万円以上、28万円未満の方
一般世帯2	市町村民税課税世帯で、一般世帯1以外の方	

4. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・ むぎのこ発達クリニックと連携し、発熱、怪我などの場合、瞬時に対応することができた。
- ・ 利用児への投薬にあたっては看護師が巡回した。

(2) 健康管理

- ・ 年2回の園医検診(4月・10月)
- ・ 年1回の歯科検診
- ・ 栄養士による食事管理
- ・ 年1回の職員の健康診断、腰痛検査の実施。
- ・ インフルエンザ予防接種の励行
- ・ 風邪薬など看護師による服薬

5. 施設設備管理業務

- ・ 火災報知器、消火器の点検(法定点検年2回)
- ・ 毎日の園内・園外危険箇所点検
- ・ 園内ワックスかけ年2回
- ・

6. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	総合施設長	氏名	北川 聡子	選任届出年月日	2015年4月17日
----	-------	----	-------	---------	------------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	2015年4月17日	最終変更届出年月日	
---------	------------	-----------	--

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	総合		外観・機能等	
点検年月日	2016年7月1日	2017年1月31日	年 月 日	年 月 日
消防署への報告	有 ・ 無		整備点検記録の有無	有 ・ 無

(4) 所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ (無)
立入検査年月日	年 月 日
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5) 避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	栄町小学校
施設からの距離	50m	施設からの距離	600m
予定地までの所要時間	3分	予定地までの所要時間	8分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
28・4・22	避難 消火・通報・救出・その他	28・10・28	避難 消火・通報・救出・その他
28・5・20	避難 消火・通報・救出・その他	28・11・25	避難 消火・通報・救出・その他
28・6・24	避難 消火・通報・救出・その他	28・12・9	避難 消火・通報・救出・その他
28・7・29	避難 消火・通報・救出・その他	29・1・27	避難 消火・通報・救出・その他
28・8・26	避難 消火・通報・救出・その他	29・2・24	避難 消火・通報・救出・その他
28・9・23	避難 消火・通報・救出・その他	29・3・10	避難 消火・通報・救出・その他

(2) その他の防災対策

7. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童発達管理責任者※	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
児童指導員	常勤	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10
指導員	常勤	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	常勤	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	6	6
保育士	非常勤	13	13	13	12	12	13	13	13	13	13	13	13
合計		33	33	33	32	32	33	33	33	33	33	33	33

8. ボランティアの受入

なし

9. 実習生・介護等体験の受入

受入学校名		実習期間	人数
実習生	札幌医療秘書福祉専門学校	5月23日～6月3日	2人
		7月11日～7月25日	2人
	こども學舎	7月4日～7月15日	2人
		9月5日～9月15日	2人
	せいとく介護こども福祉専門学校	7月4日～7月15日	1人
		11月14日～11月25日	2人
	経専北海道保育専門学校	7月18日～8月3日	3人
	光塩学園	2月1日～2月15日	2人
	札幌大谷大学短期大学部	2月6日～2月16日	2人
札幌こども専門学校	10月11日～10月21日	2人	

10. 障害者自立支援法による事業の整備

特になし

11. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	・福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・最低賃金改定に伴い時間給を改善
職員福利厚生	・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した(直接処遇職員)。

12. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/8	むぎのこ	コミュニケーション講座	1
4/23～24	むぎのこ	CSP学齢期講座	2

5/2	むぎのこ	子どもの豊かな育ちと生活を創る	17
5/19	むぎのこ	子どもの社会性の発達	17
6/8	むぎのこ	家族への支援と当事者(親)の思い	14
6/17	むぎのこ	児童発達支援センター基礎研修	2
6/18	むぎのこ	ソーシャルワーク研修	16
7/21	むぎのこ	北沢かなさん 歌研修	3
8/8	むぎのこ	プレゼン研修	17
8/9	むぎのこ	援助計画策定研修	17
9/17	むぎのこ	子どもたちの心の育ちと地域	1
9/29	むぎのこ	第2回札幌市児童発達支援研修会	6
10/8	むぎのこ	秋野先生 性教育	10
10/21	むぎのこ	センター研修	3
10/26	むぎのこ	わらべ歌研修	10
11/1	むぎのこ	旭山動物園坂東元氏 特別講演	0
11/8	むぎのこ	TLG 研修	15
12/15	むぎのこ	児童発達支援研修	2
1/7~8	むぎのこ	CSP 学齢期講座	5
3/16	むぎのこ	合唱研修	13

(2) 施設外研修・行政説明会への参加

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
4/10	CSP事務局	管理者研修受講候補者の事前研修	2名
4/11		情緒障害短期治療施設あゆみの丘	2名
5/17・18	福祉協会	全道施設長セミナー	2名
5/17~19	CSP事務局	CSP幼児版管理者検定	1名
4/4	デロイトトーマスコンサルティング	女性活用セミナー	2名
6/20・21	福祉協会	北海道知的障がい関係支援員研修	1名
7/12		北海道七飯養護学校見学	1名
7/17・18	ファミリーホーム協議会	北海道ファミリーホーム全国研究大会	1名
7/27・28	福祉協会	児童福祉施設職員研修	1名
7/8	北海道通園センター連絡協議会	第24回北海道通園センター連絡協議会研修会	1名
8/1・2	こひつじ文庫	こひつじ文庫 絵本セミナー	1名
8/5・6	ファミリーホーム協議会	第11回ファミリーホーム全国研究大会横浜大会	1名
9/8	福祉協会	全国知的障がい福祉関係職員研修大会	4名
8/27・28	CSP事務局	代表者会議 CSP管理者フォローアップ研修	1名
9/16~18	日本音楽療法学会	日本音楽療法学会学術大会	1名
9/27・28	ファミリーホーム協議会	ファミリーホーム相互訪問	1名
11/25・26	日本子ども虐待防止学会	第22回学術集会 大阪大会	1名
2/20・21	福祉協会	全道施設長研修	2名
4/4~6	CSP事務局	CSP管理者SV研修	3名

13. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
職員会議	毎月第1木曜日	12回		全員	18名	
クラス会議	毎週木曜日	34回		児童発達管理責任者・児童指導員・保育士	15名	
ケースカンファレンス	毎週月・木	24回		児童発達支援管理責任者・児童指導員・保育士	15名	
個別支援計画作成会議	前期・後期	2回		児童発達支援管理責	15名	

録				任者・児童指導員・ 保育士		
---	--	--	--	------------------	--	--

14. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ホームページ利用による情報発信をした。 後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた（後援会）。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> 電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 電子データは専用サーバーに保存し、職員のみ VPN 接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> 苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> 本部配置職員（パートを含む）を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 利用契約は担当職員によって公正に契約した。 経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> 法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> 第三者評価は実施していない。

15. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法

16. その他特記事項

17. 評価と展望

・定員 47 名に対し、登録人数 60 名でスタートし、最高 77 名、最終的には 77 名の登録となった。今年度も引き続き、療育ではコモンセンスペアレンティング、特に効果的な褒め方を重点的に行った。効果的な褒め方は、クラスでターゲットスキルを決め褒める箇所を決めてクラスにはり、職員のスキル練習、パートさんとのスキル練習を毎朝行う事で、現場で褒める回数が増えていった。年齢ごとにコモンセンスペアレンティングをお母さん向けに年 3 回行い、お母さん方への実践へも繋げた。ケースカンファレンスで応援計画を作成する事で、子どもとお母さん方のニーズ、支援方法が明確化され、振り返りをする事で今後の課題が分かりやすくなった。また、児童発達支援センターとして、地域の児童発達支援事業、保育園、幼稚園などとの研修を行い、参加する事で顔の見える繋がりが深くなってきた。

・書類整備では、内部監査を行っていたことで概ねクラスごとの書類はその場でチェックされるので監査を迎えた時に大きな混乱なく終えることが出来た。職員同士協力し合い行った。

・来年度も、引き続き、コモンセンスペアレンティングを更に深め、パートさんを含めた全職員で効果的な褒め方、ターゲットスキル、スキルブックを使う、効果的に取り入れていきます。

3. 保育所等訪問支援

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2.1
計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	12	12	11.1
前年度	5	6	7	8	8	9	9	9	10	10	10	10	8.4

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	0	3	2	1	2	2	1	1	1	1	3	1	18
前年度	0	3	2	3	1	4	1	2	3	0	1	0	20

17. 評価と展望

- ・ アセスメントに基づき、客観的に訪問支援計画を作成した。
- ・ 訪問支援のニーズを把握し、訪問支援を実施する。
- ・ ニーズに応じた、支援量の確保が難しい。
- ・ 学校への保育所等訪問支援のニーズはあるが、人的保障が得られず対応は困難。

4-1. 児童デイサービスむぎのこ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
東区	22	25	24	25	25	26	26	26	28	28	29	29	26.1
北区	6	7	8	9	9	9	9	9	9	8	8	8	8.3
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区												1	0.1
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	2	3	3	3	1.6
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1.1
措置	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
計	35	40	40	42	42	43	43	43	46	46	47	48	42.9
前年度	38	40	40	43	41	41	43	45	33	35	35	35	39.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	203	226	267	264	243	274	271	279	237	274	281	273	3092
前年度	245	282	289	300	206	261	305	261	248	274	294	286	3254

17. 評価と展望

- ・1・2・3歳児の混合クラスでそれぞれの年齢に合わせて療育を行った。
- ・クラスでは、CSPの効果的な褒め方を行なった。良い結果を楽しみに子ども達の意欲が高まり、適応行動が増え、職員も褒めることに慣れて自然と話せるようになった。
- ・アレルギーの子ども1名に対しては給食室と連携して行った。給食やクッキング等、職員は細心の注意を払い対応し、ミスがなかった。
- ・子どもや母の対応について困難な場合は、総合施設長、古家統括部長、マネージャーに相談し、解決に繋げていった。
- ・家族支援は、相談室、ヘルパー、ショートステイ、兄弟児の担任と連携し、解決に繋げていった。
- ・書類については、内部監査に向け、職員で連携して揃えることができた。期日を守り、終わらせることができた。
- ・地域支援では、保育所等訪問を行ない、幼稚園の様子を知り、理解を深め対応をしていった。
- ・グループカウンセリング、CSPでは母も一緒に褒め方を練習して家庭でも出来たことを話してくれたり、個別カウンセリングを受けて明るくなったり、父親の理解が深まる事があった。
- ・後半子ども同士の関わりが多くなり、会話やごっこあそびで集中して楽しむことができた。
- ・職員・パート職員のCSPを使うことがスムーズになり、褒めること・落ち着いてから戻るなど適応行動が増えた。これからもCSP取り入れて、子どもをたくさん褒め、1・2歳児のクラスとして育みの中でも、可愛がって安心・安全な支援を行っていく。

4-2 児童デイサービスむぎのこ 重心児クラス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
北区	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2.5
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.9
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	12	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12.4
前年度	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	108	110	106	95	94	126	110	109	82	100	107	98	1245
前年度	71	58	81	90	66	101	105	97	83	80	96	85	1013

17. 評価と展望

2016年度は、幼児3名が加わり、2歳児から中学校1年生まで13名のクラス編成だった。働いている保護者も多く、朝から日中一時支援事業までの利用し、一日の多くを麦の子で過ごす子どもも多かった。2016年度は一日平均1から3名の利用人数が増える見込みであったので利用定員を5名から7名に増やした。しかしながら、体調不良による長期入院や親の転勤に伴う施設入所、引っ越しによる利用困難、また時間割変更に伴う登園の困難が見られ利用者数は一日平均1名程度の増加にとどまった。本来来ると予想された人数に対して人員を配置していたため、看護師の人数も多く、利用児に対して人員が多く配置されてしまう日もあった。しかしながら、重心児で自分で自発的に動くことが困難あるいは、歩行などの移動が不安定、または身体の介助に複数で関わることで細心の注意を払うことが出来た。または医療的ケアを看護師1名の責任ではなく複数人数で対応することができ、看護師や指導員等も専門性を高めることが出来た1年であったと思われる。

・利用児それぞれへの医療的ケアに対しては、必要に応じて経鼻経管栄養、胃瘻栄養、浣腸、摘便、喀痰吸引、血糖検査、投薬、導尿などは、主治医による診断書、保護者からの依頼書をもとに看護師が行った。

・異年齢クラスであったので、クラスでの活動だけではなく、センター各クラスとも積極的に交流保育を行った。特に年長に関しては週1回の交流保育のほか、小集団や制作、お泊り会、年長リズム、卒園

リズムなども行った。また、運動会や生活発表会も年齢ごとに参加した。

・発達段階の幅が大きく、人工呼吸器をつけ最重度の児から自立歩行可能な児までいたので、同じ活動であっても個々の発達・体力・体の可動域に合わせるように配慮した。

・気持など発声・発話で表現することがむづかしい児も多いので、小さなサインにも大人が気づくことが出来るように努めた。パート職員もCSPの講座を受講し、また受講していないパート職員に対してもスキル練習を行うことでクラス全体で効果的な褒め方をすることが出来るよう努めた。

・2017年度は5月から利用定員を7名から5名に戻すことになる。現在、法人内他事業所を利用している児で重心判定を受ける予定の児も2名いるので利用者が増える予定である。しかし、長期入院なども予定している児も数名いるので、利用率や職員配置も意識し療育内容だけではなく、運営面も配慮していく。また、発達に合わせた関わりかた、CSPを職員全体で共有し、子どもたちが安心して通園することが出来るクラス作りを目指す。また、医療的ケアだけではなく、個々のかかわりに対しても、目と目、言葉と言葉、心と心で連携し安全に支援を行っていく。

5. プレイ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	18	18	20	19	20	20	21	22	22	23	19
北区	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	29	29	30	30	32	31	32	32	33	34	34	35	31
前年度	18	20	20	21	21	21	21	21	24	24	24	24	17.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	216	240	280	259	243	268	286	278	220	273	284	258	3105
前年度	252	256	304	295	200	262	289	262	252	274	299	279	3224

17. 評価と展望

- ・今年度は3歳児のグループで活動を行った。療育の中にCSPの効果的な褒め方や予防教育を職員が取り組んでいく事で、公園から帰る時に集まる事の練習をし、子ども達が実際に行動出来るようになり、また効果的な褒め方を多く行なう事で、子ども達は意欲的に活動に参加する事が多くなり、朝の会、リズムの参加を楽しむことが出来るようになった。単独通園が多く職員が関係を繋げながら仲間を意識した活動や関わりも多くなっていった。
- ・給食では、偏食のある子が数名いたので、白ご飯を用意したり、食事を楽しく食べられるように個々に合わせた対応を行ったが、徐々に偏食も少なくなってきた、他児と同じ給食を食べられるようになっていった。
- ・CSPは毎朝練習を行う事で職員の学びにつながり、療育の場面で生かすことが出来てきている。特にパートさんとも効果的なほめ方の練習をを行う事でクラス全体として効果的な褒め方が定着してきている。
- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類面も毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来、また、他の職員にチェックしてもらおう事で、気づかなかったミスもチ

ェックする事が出来た。

- ・発達支援のほか、相談課と連携し、保護者へのグループカウンセリング、CSP講座、個別カウンセリングや毎月の母親向けの学習会などの支援を行った。
- ・次年度も継続してCSPをパートさんを含めて毎日練習していき、日々の療育の中で予防的教育法を取り入れることで効果的な褒め方のポイントも増えてくるので、CSPをしっかり職員も身につけ、子ども達との良い関係を築きながら、たくさん効果的な褒め方を行なっていきたい。

6.ヨシア（児童発達支援事業）

1.施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	9	9	9	9	9	9	10	9	9	8	8	9	8.92
北区	5	5	5	5	5	5	6	7	7	7	7	7	5.92
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	15	15	15	15	15	15	17	17	17	16	16	17	15.8
前年度	17	17	17	18	18	18	18	18	18	19	19	19	18

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	192	244	259	241	206	262	249	262	196	233	241	241	2826
前年度	243	220	264	272	186	247	272	236	210	235	259	271	2915

17. 評価と展望

- ・ヨシア(年中児)のクラスでは、CSPの効果的な褒め方を行なった。良い結果を楽しみに子ども達の意欲が高まり、適応行動が増え、社会スキルが身につけてきた。
- ・アレルギーの子ども2名に対しては給食室と連携していった。給食やクッキング等、職員は細心の注意を払い対応し、ミスがなかった。
- ・子どもの対応について困難な場合は、園長、古家統括部長、マネージャーに相談し、解決に繋げていった。
- ・クラス会議には子どもの保育の為パートさんが出るのが難しく、共有が難しかった。
- ・家族支援は、相談室、ヘルパー、兄弟児の担任と定期的に家族支援計画会議を開催し、解決に繋げていった。
- ・書類については、期日を守り、終わらせることができた。
- ・地域支援では、保育所等訪問を行ない、保育園の様子を知り、理解を深め対応をしていった。
- ・グループカウンセリング、CSPでは数名の母が参加することができていた。個別カウンセリングを利用していった。
- ・子ども同士の関わりが少なかったため、設定で鬼ごっこやお店屋さんごっこ等を取り入れ、やりとりする機会を設けた。
- ・他クラスとの交流では、週1回スタディと交流保育を行い、同年齢で交流を深めていった。

7.シーランチ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	10	10	10	10	11	11	11	11	11	11.5
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.5
手稲区	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.75
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
前年度	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	224	262	286	258	210	260	258	259	202	236	258	220	2933
前年度	242	231	283	275	174	247	272	240	220	233	262	231	2970

17. 評価と展望

- ・年長のクラスとして、CSPで予防的教育法を徹底して行うことで、クラス全体が4、5月には落ち着いて生活することが出来ていた。また、良い結果の設定も最小限にする事で効果が見られ、子ども達も日々意欲的に活動に参加している様子が見られていた。
- ・職員同士の連携の面で、連絡ミスが時々あった。子どもの対応やクラスでの配布物等、細かい部分まで職員同士話し、ミスのないよう支援することが必要であると感じた。
- ・パート職員は積極的に情報の共有に努めている所があるので、今後も同じように職員同士情報の共有に努めていく。
- ・子どもの発達に合わせて療育をする点で、子どもの課題を日々細かに話し合い、全員が一致した支援ができる事が多かった。
- ・子どもの対応に困った時には、職員同士声を掛け、職員も無理がない、子どもにも配慮した関わりを継続して行うことが出来ていた。
- ・保護者支援は積極的に行えた。保護者同士のトラブルがあるが、相談課や統括部長、総合施設長の助力を得て解決に繋がられた。

8.セーボネス（児童発達支援）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区													
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西区													
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													

計	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
前年度	15	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15,75

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	234	238	260	249	210	261	257	256	179	237	257	224	2862
前年度	239	234	287	271	174	249	262	237	230	237	262	243	2925

17. 評価と展望

- ・契約数は、4月～3月までの1年間15名と変わらず、幼稚園との併用児は2名で、1年間利用率もクラスも安定していた。
- ・働いている母が多く、母子率は少なかった。
- ・3歳児クラスなので、CSPでは効果的に褒めるを重点的に行った。
- ・問題行動で気を引くタイプの子が多く、1学期は問題行動ではなく適応行動やすでに出来ている事に目を向けて効果的に褒めるようにし、職員がイライラする時には代わるようにした。
- ・職員、パートさんも含めてCSPのスキル練習を毎日行う事で、クラス全体で効果的に褒める事が出来た。
- ・家族支援も難しいケースは、家族支援計画会議を行い、ショート・ヘルパー・相談室・担任・カウンセラー等のチームで支援出来た。
- ・週1回のグループカウンセリングの中で、年3クール母向けにCSPの勉強会を行い、クラス担任が講師役になった事で、子へのCSPが家庭でも用いる事が出来てきた。
- ・次年度も、更にCSPを療育に活かして、頻繁に用い、子どもとの良い信頼関係構築に努める。

9.スタディ（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	12	12	12	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12.4
北区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	16	16	16	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16.4
前年度	15	15	14	15	16	16	16	16	16	16	16	16	15.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	212	243	279	249	230	261	260	262	185	237	262	250	2930
前年度	232	227	275	274	180	245	269	236	223	235	259	242	2897

17. 評価と展望

- ・スタディで持ち上がりの年中児が多く、4月当初から落ち着いて過ごす事ができていた。CSPの効果的な褒め方をパート職員にも日々練習を行い、スキルポイントを付けて目に見える形で意識的に取り組んでいった。
- ・職員の研修で学んだわらべうたを活動に取り入れ、ゆったりと拍を意識した遊びや、簡単なルールのあるグループ遊びを積極的に取り組み、子ども達が自ら仲間と遊ぶ場面も増えていった。
- ・法人の中で事業所が離れているため、同学年のヨシアと意図的に活動を合わせて交流する場面を作り、職員同士が協力したり、子ども同士が交流し、オープンにクラスを運営するように努めた。
- ・保護者からの情報や、送迎・ショーステイなど関係職員に関わる変更事項などの伝達漏れがあった。連絡事項はメモに残し、目で確認できるようにする。複数の関係者がいる場合が多いので、担任同士で報告のミスが無いように誰が誰に報告するのか声を掛け合い確認する。

10.ライオン（児童発達支援事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	11	11	11	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12.5
北区	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.1
手稲区	1	1											1
計	16	16	14	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15.8
前年度	11	13	14	15	15	15	15	15	15	16	16	16	14.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	223	274	274	259	210	260	258	259	179	246	260	222	2924
前年度	167	193	251	255	174	247	259	236	208	236	257	252	2735

17. 評価と展望

- ・年長のクラスということもあり、CSPをベースにした、療育を行った。
- ・職員も毎朝、CSPの効果的な褒め方、予防的教育法を練習し行い、職員がパートさんにも毎朝スキル練習を行い、子どもたちをほめる習慣が出来てきている。
- ・クラスの子どもたちの発達にばらつきがあったため、若い職員は療育の中身を考えることに苦戦することが多かった。しかし、適応行動を取った時に、効果的に褒めるという基本的なことを続けることで、発達に関わらず、適応行動が増えたり、継続するということが付いた。集団全体への支援、個別支援を上手に使いわけ、その子の困り感をどうサポートしていくかを次年度は考えられるように、若い職員の育成も考えたい。
- ・シーランチの年長と合同で活動することが多かった。就学するにあたり、大きな集団の中に入り、活動していくことになれるためや、卒園に向けてリズムや製作、ルールのある遊びに挑戦するなど、一緒に協力することが出来た。
- ・サンフランシスコ研修やCSPの管理者SV研修など、実りの多い研修に参加させてもらい、勉強することが出来た。若い職員も園内研修や、園外研修など様々な研修に参加し、自分の専門性を広げて行くことが出来た。
- ・札幌市の監査対象になり、様々な事業所や職員に協力してもらい、書類整備や環境整備を行った。日ごろから内部監査で書類を仕上げていることもあり、大きな混乱もなく、進めていくことが出来た。

11.むぎのこ大通教室（児童発達支援事業・放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区			2	4	5	6	9	10	11	10	10	10	13.1
北区			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西区			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
中央区			0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7

手稲区			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計			4	7	9	10	13	14	15	14	14	14	11.4
前年度													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計			71	92	122	165	186	195	132	166	169	145	1274
前年度													

17. 評価と展望

・6月から新しく開所した事業所ということで最初は子どもの数が少なく、活動なども新しい場所で戸惑う事が多かった。リズムや音楽遊びなど体を動かす活動はビルの一つ下の階が営業前の午前中に行うなど、配慮しながら行った。戸外活動は大通公園を基点に年長さんは遊具のある西7, 8丁目まで歩いてたり、2歳児は噴水で水遊びをするなどして遊ぶ事ができた。また、後半は子どもの数も増え、東区で行っていたグルカンも大通の教室で月2回行い、たくさんのお母さんたちとCSPや悩みを共有する事ができてよかった。

・年長、年中、2歳児と他年齢のクラスだった為、午後リズムがはじまるとクラスが2つに分かれることが多く、職員もわかれて活動する事が多かった。1年目の職員に負担をかけてしまう事もあった。次年度は年長の以外の子どもを受け入れて、クラスの職員が分かれなようにしたい。

・療育では、園庭がないぶん、小麦粉粘土、ぬたくりあそび、トイレットペーパー粘土など、感覚遊びを多く取り入れた。最初は触るのを嫌がっていた子どもも職員が声をかけて、一緒に遊んでいくうちに、さわったり、形を作ることを楽しめるようになったことがよかった。また、CSPでは褒めることを中心に子どもと関わり、お母さん達ともグルカンでCSPを共有する事ができ、子どもとの関係が良くなったことがとても良かった。次年度も引き続き、お母さん達とCSPを取り入れながら、子ども達の自己主張を引き出していきたい。

12. 児童デイサービスむぎのこ (放課後等デイサービス)

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	33	33	34	35	35	35	35	35	35	35	35	35	
北区	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計													
前年度	43	43	44	45	45	45	45	45	45	45	45	45	

45

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	201	191	234	230	192	216	224	216	172	199	198	173	2446
前年度	209	268	283	278	204	227	276	253	246	258	252	247	3001

17. 評価と展望

- ・クラスでは、CSPの効果的な褒め方を行なった。良い結果を楽しみに子ども達の意欲が高まり、適応行動が増え、社会スキルが身についてきた。子どもたちも自分で気持ちを落ち着かせたり、「わかった」と言う声が出てくる
- ・子どもの対応について困難な場合は、園長、古家統括部長、マネージャーに相談し、解決に繋げていった。
- ・家族支援は、相談室、ヘルパー、兄弟児の担任と定期的に家族支援計画会議を開催し、解決に繋げていった。
- ・書類については、期日を守り、ほぼ終わらせることができた。
- ・公園遊びでは繰り返し遊ぶ、2点間を意識して関わるように心がける。
- ・子ども同士の関わりが少なかつたため、設定で鬼ごっこやお店屋さんごっこ等を取り入れ、やりとりする機会を設けた。
- ・他クラスとの交流では、夏、冬休みに他事業所（トゥモロー、シーランチ）との交流保育を行なう。
- ・虐待の疑いがある子には個別に朝、帰りの指針を徹底する

13. 児童デイサービスジャンプレッツ（放課後等デイサービス事業）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19.0
計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19.0
前年度	17	17	17	18	18	19	15	19	19	19	19	19	16.7

(2) 利用数・利用率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約数	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
開所日数	20	20	23	20	20	20	22	22	19	19	20	23	248
利用数	241	240	277	241	239	241	268	266	219	266	240	253	2991
利用率	120.5	120.0	120.4	120.5	119.5	120.5	121.8	120.9	115.2	120.0	120.0	110.0	

(単位 人)

14. 評価と展望

- ・今年度は小学6年生から高校3年生のグループで活動を行った。
- ・個別支援計画とCSPを、子ども一人一人の状態、発達・発育状況、環境などに合わせて、ケースカンファレンスを行い、職員集団でどういう関わりを大切にするかを話し合いながら、関わる事を重視した。
- ・CSP 学齢期版の研修に職員を一人、受講させることが出来た。CSP の講座を受講する事で、CSP を使える職員を増やしていく。
- ・特に小学高学年～高校3年生という年齢にも幅があるので、CSP の効果的にほめる事、予防的教育法を使い、外出の際などに用いることで、社会スキルの向上を目指した。
- ・年齢と発達の差がある子もいるので、その子ども一人一人に合った、甘えを受け止め、自己主張を引き出す事、また友達を意識して一緒に遊ぶ事を意識して療育を行っていった。
- ・昨年度よりも朝、夕の学活時に、座って参加出来ることが増えてきており、さらに、CSP で効果的なほめ方や予防教育を行うことで、褒める回数とともに、クラス子ども達に落ち着いて参加出来る場の提供が出来た。
- ・給食では、偏食のある子、アレルギーのある子がいたので、十分に配慮し、法人で作られたアレルギー防止マニュアルに沿って、食事の提供を行う、対応を行った。偏食の子も改善が見られ、アレルギーも無く、給食を提供出来た。
- ・CSP は毎朝、行う事で職員の学びにつながり、療育の場面で生かすことが出来てきている。特に効果的なほめ方を行う事で子ども達の適応行動が少しずつ増えてきている。
- ・子ども一人一人にターゲットの社会スキルを決め、出来た時に、ポイントを与え、10 ポイント

ごとにお菓子ボックスから、つかみ取りをして、良い結果を行う。

- ・運営面では、利用率は平均して安定していた。書類面も毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来た。他の事業所の職員にチェックしてもらう事で、気づかなかったミスもチェックする事が出来た。
- ・発達支援のほか、相談課と連携し、保護者へのグループカウンセリング、CSP講座、個別カウンセリングや毎月の母親向けの学習会、毎週土曜日にむぎパパの会というパパ向けの学習会、グループカウンセリングなどの支援を行った。

14. プレイ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	18	18	17.1
北区	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	8	8	7.3
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
手稲区													
措置													
計													
前年度	25	25	25	25	25	25	25	25	26	26	27	27	25.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	197	243	274	245	212	237	240	254	190	218	227	188	2725
前年度	234	216	262	264	174	231	271	246	212	232	228	206	2776

17. 評価と展望

・小学校3年生のクラスで、4月に始まった時は、学校でもクラス替えがあり、事業所も職員の顔ぶれも変わって、気持ちが不安定になる子ども達が多かったが、日常の活動の流れを変えずに行ったり、職員から明るく挨拶をすることなどを意識的に行うことで、職員も子ども達も徐々に慣れて落ち着く時間が増えていった。

・学習では、取り組むまでに時間がかかる児童もいたが、宿題をすることで自分にとってどのような良い結末があるのかを話したり、時間内に終わらせることができた時には、本児の好きな絵のぬりえができるなどのよい結果を用いるなどして、励まして一緒に取り組むことで、自分から宿題に取り組む姿が見られるようになった。

・ミーティングの時はCSPのスキル練習を行うとともに、後半ではマインドフルネスも取り入れて、アドバイスを受け入れる、助けを求める、挨拶をする、落ち着くことを練習し、練習に参加したことを効果的に褒めたり、そのように行動することで、周りの人と楽しく過ごす時間が増えるかもしれないということも繰り返し伝えた。その結果、全員が練習に参加したり、マインドフルネスでは5分間静かに目を閉じて座って呼吸を整える時間をつくることができた。

・来年度も、職員はもちろん、パート職員もCSPの効果的な褒め方と予防的教育法を重点的に練習してスキルアップをし、子どもたちが家庭でも集団でも人と楽しく過ごす時間が増えるように関わっていく。

15. ライオン（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	25	25	24	26	27	27	27	27	27	28	28	28	26.5
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
措置	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3.8
計	34	34	34	36	37	37	37	37	37	38	38	38	36.3
前年度	41	43	15	15	16	17	17	17	17	17	18	18	20.1

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	228	235	294	263	248	259	273	284	244	266	269	235	3098
前年度	436	446	274	252	168	233	250	247	217	234	247	228	3232

17. 評価と展望

- ・今年も引き続き、C S Pの予防教育と効果的な褒め方で子どもたちが落ち着いて過ごすことが出来た。
- ・宿題も1年生の時に比べて難しくなっているが、学校から帰ってきたらすぐに宿題を出して、取り組んでいる。わからない時は、助けを求めるスキルを使い、「先生」と手を挙げて、待つなど、出来るようになってきている。
- ・学校の不登校支援も、学校やスカイブルーの職員と協力しながら行う事が出来た。主に、行事等で、学校に子供と一緒に行ってサポートした。
- ・同じ学年の事業所の野の花と協力し、夏休み、冬休みの活動を充実させるために、職員同士連携をした。難しいところは、ライオンの職員がサポートに入った。
- ・監査が入り、他事業所の職員にも手伝ってもらい、無事に終わることが出来た。書類整備も、内部監査には、全て出来ているように職員で協力し、揃えるように努力した。
- ・来年度も、引き続きC S Pに取り組み、子どもたちが安心して、落ち着いて過ごすことが出来る事業所をめざし、家族支援や学校への地域支援も、心理相談部や教育支援部と連携し、取り組んで行きたい。

16. ヨシア（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	31	31	30	30	30	30	30	30	30	32	32	31	30.5
北区	5	5	5	5	5	5	5	6	5	5	5	5	5.08
西区													
南区													
白石区										1	1	1	0.25
計	36	36	35	35	35	35	35	36	35	38	38	37	35.9
前年度	19	19	18	18	17	16	16	16	16	16	16	15	16.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	420	473	546	474	389	429	487	471	362	460	440	371	5322
前年度	172	183	205	198	143	176	167	160	139	168	170	159	2040

17. 評価と展望

- ・小学校1年生のクラスとして活動を行った。4月の始めは慣れない学校生活の後の活動ということもあり、子どもも大人も流れをつかむまで時間がかかったが、荷物の片付け、学習、おやつ、戸外活動など一日の流れを大枠で決めていることで、子どもたちは見通しを持って荷物の片づけをしたり、プリン

- トに取り組むことができた。学習では学校の宿題を中心に行い、出来るだけ個別対応を行っていった。
- ・天気の良い日は戸外活動を中心に行った。C S Pの予防的教育法を用いることで子どもたちも公園でのルールを意識して活動することができ、褒める機会を多く作ることが出来た。
- ・パート職員とも個別のスキル練習を行うことで子どもたちが出来ていることも効果的な褒め方のステップに沿って褒める機会が増えた。
- ・学校送迎や自宅送迎など家庭によって様々なニーズがあったので保護者の要望を聞きながら随時送迎部と連携して支援を行っていた。
- ・運営面では、今年度から20名定員となったので前年度よりも人数が増えた。利用人数の大きな変化はなく1年を通して安定した人数が登園していた。書類面では毎月内部監査を行ったので、職員同士協力して整備する事が出来、また、他の職員にチェックしてもらう事で、気づかなかったミスもチェックする事が出来た。
- ・次年度は2年生のクラスになる。引き続き子どもたちの発達に合った学習課題や集団活動などを設定し、居場所となるようなクラス作りを行っていききたい。また、学校支援など関係機関と連携し、チームで子どもや家族をみんなで支えていきたい。

17.シーランチ（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9.9
北区	12	12	12	12	11	11	11	11	11	11	11	11	11.3
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	23	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	21	22.3
前年度	25	25	24	24	24	24	24	25	24	24	24	24	24.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	207	216	260	227	201	211	224	236	165	207	226	173	2553
前年度	228	215	261	250	170	214	251	201	220	237	241	227	2715

17. 評価と展望

- ・新しく1.3.4年生のクラスとなり、子どもの発達の違いもあったが、肯定的に関わっていくこと、クラス全体で構造化を意識して療育を行ってきた。スタート当初は、顔ぶれが違う事や、職員が変わったことにより、不安や落ち着かない様子も見られていたが、活動や事業所での流れを一定にしておくことで、見通しを持って活動することが出来るようになってきた。又、他クラスとの交流では、夏、冬休みに他事業所（トゥモロー、むぎのこ）との交流保育を行なうことで遊びが広がり、活動の場所も広げて活動することが出来た。
- ・療育中はC S Pの効果的な褒め方を基本に行なった。良い結果を楽しみに子ども達の意欲が高まり、適応行動が増え、社会スキルが身についてきた。子どもたちも自分の気持ちを適切な形で表現し、「わかった」ということが増えてきたように感じる。
- ・職員の立ち位置や関わり方、構造化を意識していきながら活動を組み立てていくこと
- ・2点間を意識して関わるように心がける。
- ・設定で鬼ごっこやお店屋さんごっこ等、関わりのある遊びを取り入れていき、お友達同士の関わりや、やりとりする機会を設けていく。

18.ヨシア（チェリーブLOSSAM）放課後等デイサービス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	33	33	34	34	34	33	33	33	33	34	34	34	33.5
北区	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6.8
中央区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
千歳				1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8
措置	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	2.5
計	42	42	44	45	45	44	45	45	45	46	46	46	44.6
前年度	52	52	52	53	54	54	54	54	54	43	44	44	50.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	361	402	423	421	389	358	419	399	312	423	444	367	4718
前年度	436	358	447	489	378	491	546	494	417	362	380	365	5163

17. 評価と展望

- ・チェリーブLOSSAMでは、CSPの効果的な褒め方を基本にし、療育を行っていった。特に関わりが難しい子に対しては、援助計画とポイント表を作成し、それを元に職員が一貫した関わりを行えるよう心掛けた。その結果、職員が同じ方向性の中で子どもと関わることの大切さを職員の中で再確認することができ、チームで関わる事ができた。
- ・週1回の農作業体験を職員、子ども共に意欲的に取り組む事ができ、そこで収穫した野菜を使っのクッキングなども行うことができた。
- ・クラス会議は、子どもの保育や送迎などで全員集まる事が難しく、臨時で行うことも多かったため、情報の共有が難しい時があった。
- ・月に1回のグループカウンセリングでは、CSPの研修も含めて何名かのお母さんが参加する事ができた。
- ・書類では、内部監査に書類の完成が間に合わなかったため、書類整備に関して計画的に行う必要がある。
- ・進学を控えた中学校3年生に対しては、部長や上司に相談し、必要に応じて家族支援会議を行いながら進める事ができた。

19.ヨシア（スカイブルー）放課後等デイサービス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	32	33	33	33	33	32	32	32	32	33	35	35	32
北区	8	10	10	10	10	10	10	10	11	11	12	12	10.3
西区													
南区													
白石区													
豊平区													
中央区													
手稲区													
措置													
計	40	43	43	43	43	42	42	42	43	44	47	47	43.2

前年度	38	39	40	40	40	40	40	40	38	41	42	42	40
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	405	432	450	398	337	404	424	398	333	384	463	381	4809
前年度	374	394	478	444	298	379	452	432	359	347	394	375	4726

17. 評価と展望

- ・昨年度に比べると契約人数が増えている。4月時点よりも大きく増えたのが2月からである。理由としては、4月から学校に通っていたけれど、少しずつ登校が難しくなり不登校になって契約する子どもが増えたため。スカイブルーが開所した当初に比べ不登校児の需要が増え、年齢も1年生から6年生までとなっている。年齢や発達に合わせた活動を考えて子どもたちが安心して過ごせる場所づくりを職員全員で心掛けていた。C S Pの予防的教育法、効果的に褒めることを特に意識し子どもたち全員にいきとどくことが出来る様にチェックシートを作成した。その中で、適応行動が多い子どもを効果的に褒める事が少ないことが分かり、現状とどうしたら適応行動が多い子どもをたくさん褒める事が出来るかをクラス会議やケースカンファレンスで話し合いを行った。
- ・家族など身近な人に困り感などを理解してもらえず本当の気持ちを言う事が出来ず苦しんでいる子どもたちが多かった。子どもたちの困り感を軽減し、「自分はここにいていいんだ。」「自分はこのままでいいんだ。」など自分に自信を持つことが出来るように、お母さんたちへのグループカウンセリング、お母さん、お父さんたちへのC S Pのセッションや家族支援計画会議を開き、関係する各部署との連携を行った。
- ・次年度、困り感や生きにくさを抱えた子どもたちが安心して「ここにいていいんだ」と思えるようにスケールを大切にし、効果的に褒める事を多くしていきます。また、学年や発達に合わせてグループに分けての活動も増やしていきたいと考えている。

20. ヨシア（トウモロ）放課後等デイサービス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	14	14	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13.1
北区	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	2.8
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手稲区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
前年度	14	14	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16	15.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	221	245	270	244	233	244	251	249	192	232	243	228	2852
前年度	228	208	260	269	177	225	273	250	220	229	222	198	2759

17. 評価と展望

- ・療育中は特にこども達を効果的に褒める事を増やすように職員一同で行った。褒めることでこども達が自信を持って過ごせたり活動に意欲を持てる事を目の当りにして効果を感じ取れた。しかし職員がイライラしてしまったり子どもを肯定出来ない時には他の職員に助けを求めるなどの練習も行った。
 - ・朝の会や公園では2点間を意識して関わるように行った。
 - ・家族支援では家族支援会議を開いたり、お母さん達のグループカウンセリングを行ったり、また学校登校の支援を行った。
 - ・他クラスとの交流で夏休み、冬休みにシーランチ、デイサービスむぎのこと合同交流保育を行った。
 - ・設定活動が少なかったため見直して、音楽遊びやダイコン抜き、たけのこ1っぼんなどを取り入れて行った。
- ・次年度に向けては個々でお母さんと密に話をすることが少なかったため、意識して行う、子ども同士の関わりが少なかったので大人と一緒に遊ぶことで子ども同士の関わりを持たせる。

21. ヨシア（グリーン）放課後等デイサービス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
北区	16	16	16	16	16	16	17	17	17	17	17	17	16.5
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
白石区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	57	57	57	57	57	57	58	58	58	58	58	58	57.5
前年度	22	18	46	49	45	43	43	42	37	39	38	38	38.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	404	414	489	464	433	425	482	493	368	461	469	388	5290
前年度	214	158	484	498	348	384	448	438	346	408	388	370	4484

17. 評価と展望

- ・今年度のクラス編成は、4年生と5年生の57名でスタートした。人数がとても多く、始めはとて混乱した。すぐに職員同士で話し合いを行ない、環境の構造化や毎日の活動の流れを作っていた。5月に入ると、グリーンの部屋でのドッジボールが可能となり、身体を動かしたい子達と落ち着いた活動を求める子達の住み分けができた。その日その日で、身体を思い切り動かして発散したり、のんびりと過ごしたりと、活動を選択できた。
- ・学習面では、すぐに宿題が終わる子と時間がかかる子の差があり、その子その子にあった学習支援を行っていた。特に、長期休みの宿題は、家庭学習を行なうことが難しい子も少なくなく、デイサービスを利用している時間で、課題を終わらせられるように計画を立てて、子どもと話し合いながら進め、休みが終わる前に全員がすべての宿題を終わらせることができた。

- ・スタート当初は、大人の指示が入らず、ミーティングに参加すること自体が難しい子もいたが、C S P の効果的な褒め方や予防教育を行っていった結果、ミーティングの時間に合わせて片づけをし始めたり、職員に時間を確認して待っていたりと、適応的な変化がみられた。
- ・給食は、学校休業日に提供を行った。子ども達を2グループに分けて配膳を行うなど、動きを工夫したことで、大人数でも子ども達が待つ時間を最小限にできたが、食器を忘れた子への対応や食べ終わるタイミングの時間差があまりにもひらいてしまう点が、課題と考える。
- ・C S P は、特に言動が派手な子に集中しがちなので、クラス職員間で話し合っ、中々スポットの当たらない、静かにしている子に対しても意識して褒めるようにした。特に、問題行動で大人の気を引いてしまう子達に対しても、学校から戻ってきた時に挨拶をしたら褒めるなど、まず褒めることを意識して実行することで、その後の子ども達の行動が適応的に変化していった。
- ・運営面では、一年を通じて110%代で安定していた。学校の長期休みがある8月と1月のみ120%代になった。書類面では、契約人数が多い為、契約関係の書類や受給者証の更新に伴う処理が滞ることがあった。また、記録など毎日コツコツと行う必要があるものも溜まりがちになってしまっていた。毎月の内部監査に合わせて意識して書類を整備することができた部分もあったので、次年度は、計画を立て、円滑に書類を整備するための流れを作っていきたい。
- ・次年度は、今年度の子どもたちは全員別の事業所に移動になるので、全く新しい子ども達の集団となる。今まで異年齢の子と集団になることが少なかった子ども達なので、各活動の構造化と子ども達の様子をじっくり観察しながら対応を練っていくことを大切に、C S P の効果的な褒め方を意識して多く用い、予防教育を取り入れてきたらまた褒める、という良いサイクルの中で子ども達の支援をしていきたい。

22.野の花（放課後等デイサービス）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
措置													
計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
前年度	24	24	24	25	25	25	25	25	25	25	24	24	24.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	215	229	229	241	199	236	254	246	186	214	234	215	2698
前年度	333	328	399	370	242	313	347	330	277	237	248	222	3646

17. 評価と展望

- ・野の花は前年度から利用者の変化が無くそのまま2年生のクラス編成になった。非常勤の職員が継続して関わられたので子ども達も職員の変化による緊張やストレスも少なかった。活動は最初に挨拶を行ってから荷物を片付けて宿題を取り組む流れだったが指示に従うことが難しい子が大半だった。繰り返し予防と練習を行う事で後半はほぼ全員が最初の声掛けだけですぐに行なうことが出来るようになった。学校が長期に休みの時は公園の移動でバディで行動する事を繰り返し練習する事で青少年科学館や開拓の村の遠足でも大人の指示に従って行動出来る子が増えた。3期に入り学校内で暴力的な行動を取る利用者のアプローチとして助けを求めるスキルの練習に取り組んだ。全体で毎日繰り返して行う事で友達通しのトラブルやケンカが少なくなった。次年度もC S P の予防や練習を行い利用者の適応行動が増えるように職員間で連携して行いたい。運営面では120%以上の利用率があったので次年度も継続して利用率を保てるように意識していきたい。

23.ヨシア（野の花・第3単位）放課後等デイサービス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	33	33	33	34	34	34	33	33	35	35	35	35	34
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
措置													
計	34	34	34	35	35	35	34	34	36	36	36	36	35
前年度													

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	227	224	226	206	204	204	229	222	182	198	217	181	2520
前年度										102	105	119	326

17. 評価と展望

- ・中学生と高校生のクラスに分けて、学習活動を行なった。4月は、中学生はクラスに慣れるのに、週2回のミーティングや、個別に話を聞いたりすることで徐々に仲間づくりが出来ていった。
- ・活動の学習は、中学生は、学校の課題を終わらせて帰る事と、日替わりで、英語・国語・数学、理科・社会の5教科の基礎勉強、らくだプリントを子どもに合わせて学習するようにした。中学3年生は、個々の進路相談と、志望高校にむけての受験対策、面接練習などを行った。
- ・高校生は、英語検定・漢字検定、らくだプリント、基礎英語を中心に、基礎学力をつける学習をした。また、学校の課題が終わらない子は、課題を一緒に終えるようにした。高校3年生は、進路にむけて必要に応じて、小論文の練習、面接の練習を行った。
- ・中学校や高校生活がづらいなどで不登校や悩んでいる子には、家庭と連携して気持ちをよく聞いて困り感を理解し、CSPで予防教育をして出来た時は効果的に褒めた。
- ・運営面では、1年間を通して安定した通所人数だった。しかし、4月から登録人数が倍以上になったので、利用者さんの書類の整備に、今までより時間とチェックが必要となった。毎月の内部監査があるため、細かいミスを見つけてもらうことができた。

次年度は、引き続き、子どもが困らないように、基礎学力を付ける学習支援をしていくこと、そして、子どもが安心して話ができる場所づくりをしていきたい。また、次年度は受験生が大変多いため、受験勉強に力を入れていきたい。

24.日中一時支援事業むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	64	70	87	90	82	83	85	84	90	88	118	91	83.6
前年度	75	73	81	83	86	81	86	84	88	83	94	89	86.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	562	631	869	835	805	921	993	1055	811	956	1091	906	10435
前年度	642	607	852	905	661	878	899	858	759	936	926	897	9820

17. 評価と展望

- ・他事業所から離れた事業所で、一般住宅の二階を借りての活動なので、安全面には特に気をつけた。
- ・事業所の周りは静かな住宅地であるため、公園に行く時や近隣に大きな音をたてるなどの迷惑がかからないよう十分に配慮した。
- ・次年度も昨年度と同様、家族の負担を少しでも軽減できるような家族支援の一環として、また子ども達自身の安心できる場としての活動を行っていききたい。

25. 日中一時支援事業ヨシア

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	20	20	18	19	18	18	19	19	19	18	18	18	18.6
前年度	12	10	16	14	14	15	15	15	15	15	15	15	13.2

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	290	324	356	295	220	316	314	309	242	254	329	271	3520
前年度	201	130	200	175	118	198	223	173	183	157	225	208	2191

17. 評価と展望

- ・子どもの状態や家族の状況など、午前の担当職員らと情報を共有・把握し、子どもに寄り添った療育を行った。
- ・職員全体でCSPを用いて、子どもを効果的に褒めることを中心に、子どもを肯定的に認めて関わるよう努めた。
- ・放課後等デイサービスのヨシアと連携しながら交流保育を行い、人数の多い活動も安全に行う事ができた。
- ・次年度も子ども、家族が安心して利用し、家族の負担が軽減するように職員が協力して環境づくりを行っていききたい。

26. 日中一時支援事業スタディ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
計	23	23	24	25	25	23	23	24	23	26	27	25	24.3
前年度	19	17	19	20	19	20	21	22	22	22	23	22	20.5

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	225	239	281	291	245	294	278	291	217	304	312	266	3243

前年度	155	118	185	196	140	195	219	204	209	233	229	234	2317
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------

17. 評価と展望

- ・他事業所から離れた事業所で、一般住宅の二階を借りての活動なので、安全面には特に気をつけた。
- ・事業所の周りは静かな住宅地であるため、公園に行く時や近隣に大きな音をたてるなどの迷惑がかからないよう十分に配慮した。
- ・次年度も昨年度と同様、家族の負担を少しでも軽減できるような家族支援の一環として、また子ども達自身の安心できる場としての活動を行っていききたい。

27. 日中一時支援事業 セーブネス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
合計	37	32	32	36	35	34	35	39	39	39	40	41	36.7
前年度	42	43	40	40	40	43	45	41	44	42	48	45	42.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
	380	351	435	417	365	398	410	444	326	421	448	391	4786
前年度	401	373	493	467	324	429	447	402	360	416	433	399	4944

17. 評価と展望

- ・家庭の状況や家族のニーズ、必要に応じて受け入れた。
- ・年間通じて園庭に出て、体をたくさん動かして遊べるようにした。

28. ショートステイホームむぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	62	62	63	65	66	66	68	74	75	78	81	83	70.3
北区	16	16	17	17	18	18	18	21	22	22	24	24	19.4
西区	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7
南区	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1.6
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1.2
中央区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	1.6
手稲区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3.2
当別町	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1.25
千歳市	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.75
計	85	85	87	90	93	94	96	105	107	111	120	122	99.6
前年度	32	34	44	52	55	64	68	69	74	77	79	84	61.0

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	99	111	113	120	102	112	116	112	97	108	107	115	1312
前年度	70	97	113	112	82	101	116	110	104	106	104	105	1220

17. 評価と展望

- ・前年度は幼児さんの利用が多かったが、夏休みなど、長期の休みを家庭で過ごすことが難しい思春期の小学校高学年から高校生の利用が増えたため、個室での対応が増えた。
- ・パート職員も含めてコモンセンスペアレンティングのスキル練習を取り入れ、効果的な褒め方を意識して行ったことで、こども達への関わり方がより肯定的になり、子ども達も安定してきた。
- ・家族支援会議等に基づき、家庭環境にも配慮しながらきめ細かな支援を行っていく。

29. ショートステイホームピース

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	107	107	110	111	114	115	120	122	124	124	126	129	117
北区	26	26	26	26	26	27	28	30	30	30	32	32	28
西区	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
南区													
白石区									1	1	1	1	0.3
豊平区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	2.2
中央区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	4	3.3
手稲区													
措置													
計	141	141	144	145	148	150	156	160	163	166	170	173	154.8
前年度	112	112	115	117	121	122	125	126	126	128	130	137	122.6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	329	334	331	350	329	337	338	344	310	317	304	331	3954
前年度	289	279	323	327	314	343	349	342	317	333	329	341	3886

17. 評価と展望

- ・ショートを定期的に利用している結果、他害、自傷、パニックなどが減り落ち着いたケースが多く見られた。
- ・学童から思春期にかけて、家族との関わりが困難なため利用するケースも増えた。
- ・CSPを学習する事により、職員もパートさんも褒める回数が増え子ども達が安定してきた。
- ・家族支援会議等に基づき、家庭環境にも配慮しながらきめ細かな支援を行っていく。
- ・休日等の余暇活動を充実していく。

30. セーボネス保育園

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	18	21	24	13	13	17	20	22	24	22	24	23	20.08
北区	4	4	6	3	3	4	5	4	4	4	4	5	4.16
豊平区	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.75

西区	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.25
中央区	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.91
手稲区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0.75
計	24	28	33	19	19	24	28	29	31	28	30	30	26.9
前年度	23	25	31	33	32	32	32	31	34	35	35	37	31.6

(2) 利用数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延人数	266	312	403	89	87	136	166	207	236	312	345	362	2921
前年度	235	224	301	319	197	278	281	283	159	212	252	230	2971

14. 評価と展望

28年は日誌・日報・連絡ノートの管理整備や入園時健康診断、毎日の視診・毎月の身体測定等を行いました。

児童の利用人数に合わせた職員配置やアレルギー食に対する個別対応なども行い

児童の安全に配慮出来たと思います。

- ・これまでの母子通の兄弟児童だけではなく、地域の児童の受け入れ利用も行っています。
- ・給食では、アレルギー食の確認・偏食の児童には、食べられる物で対応しました。
- ・新年度も母子通の兄弟児や地域の子ども達や職員の子ども達が自分らしくのびやかに過ごせて、保護者の方も安心して預けれる保育をする。

31.むぎのこ保育園

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	0	0	0	15	15	16	16	16	16	16	16	16	15.7
北区	0	0	0	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
西区	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0.2
計	0	0	0	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19.0
前年度													

(2) 利用数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計				331	289	350	369	353	293	319	338	303	2945
前年度													

14. 評価と展望

・むぎのこ保育園は、平成27年7月より認可外保育園、企業主導型保育園として定員19名で開園している。0歳児から2歳児が在園している。日誌・日報・連絡ノートの管理整備や入園時健康診断、毎日の視診・毎月の身体測定等を行いました。

・さらに乳幼児の安全管理の為睡眠チェックなど細かな対応をしている。児童の利用人数に合わせた職員配置やアレルギー食に対する個別対応なども行い児童の安全に配慮出来たと思います。

・これまでの母子通の兄弟児童だけではなく、地域の児童の受け入れ利用も行っています。他事業所との交流や、保育園の屋外遊技場としてのテラスを利用して毎日楽しく過ごせるように遊びの工夫をしている。

・給食では、アレルギー食の確認・偏食の児童には、食べられる物で対応しました

・新年度も母子通の兄弟児や地域の子ども達や職員の子ども達が自分らしく安心して過ごせて、保護者の方もきめ細やかな対応をして、安心して預けられる保育園をします。

32. ジャンプレッツ（就労移行）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	8	9	10	10	10	10	10	10	10	9	9	10	9.5
北区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
計	10	11	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	11.7
前年度	9	10	10	10	10	10	8	9	9	9	8	9	9.3

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	121	165	144	140	120	146	153	133	118	119	106	133	1598
前年度	138	127	148	152	119	117	125	111	112	112	101	95	1457

17. 評価と展望

調理室での作業では、食材の下処理、食器の準備や洗浄業務、調理室の清掃業務などの作業を行っている。利用者さんの生活環境は様々であるため、作業のスキルを磨くだけではなく、子育てについての悩み、不安などの相談や、生活リズムが安定せず通所する事が難しいなどの相談を受けるなど、生活支援、家族支援を必要とされる利用者さんが多い。個別に懇談の機会を設ける、心理士によるカウンセリングを受けるなど、職員が利用者さんの思いを丁寧に聞いていく事で悩みや不安の軽減を図れるよう配慮した。

一般就労に結び付いた利用者さんは3名。2016年11月より法人内のグループホーム、保育園で利用者さん、子どもの支援をされている。2人は、2017年3月で就労移行支援のサービスを終え、1人は4月より法人内での雇用、もう1人は同じく4月より化粧品製造「セピア」のトライアル雇用で採用されている。定期的に連絡、職場訪問などを行なうことでご本人や職場の担当者 と連携し職場に定着できるよう支援を継続する。

2016年度前半は、利用者さんの欠席が多く、利用人数が低下している。欠席時にご本人に連絡し心身の体調を把握し通所を促す、契約人数を増やす、より利用者さんに合わせた作業を提供するなどの対策を講じた。利用率は改善傾向にあるが、利用者さんからの要望や今後の利用率の推移などから、今後も随時、必要な対策を図っていく。

職員がCSPを身につけ肯定的な関わりを増やし、利用者さんが自己肯定感を高めつつ調理室での作業を行なっていけるよう支援する。利用者さんと社会スキルを身につける練習を行なう際に、利用者さん個々のターゲットスキルを明確にし、予防的教育法を用いて練習を行ない、出来た時には効果的なほめ方を用いて伝え、般化できるよう支援していく。

個別に面談を行なっていく事で就労支援だけではなく、生活面の不安や心配事などを相談していく事で、通所の安定を図っていく。

一般就労までに調理室での仕事を1つでもマスターし、自信を持って就労先に臨むことが出来るよう、利用者さんと目標を立てて支援していく。

33. ジャンプレッツ（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	32	33	33	33	33	33	33	33	33	34	34	34	33.1
北区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
西区	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
江別市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	49	50	50	50	50	50	50	50	50	51	51	51	50.2
前年度	48	48	48	48	48	48	46	48	48	48	48	48	47.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	872	885	986	935	863	928	988	944	899	890	929	988	11101
前年度	904	829	1019	1006	824	878	986	873	866	865	910	943	10903

17. 評価と展望

利用者の方々の支援は、コモンセンスペアレンティングを中心に、全職員がスキルを学び実践できるように朝の打ち合わせ等でのスキル練習、またパート職員の方々も勉強会（第2水曜）を行なう事により一定のレベルで利用者の方々と関わることが出来た。また保護者のCSPも開催し、自宅に帰宅してからの保護者の関わりも効果的褒め方、予防教育等を用いる事で参加された保護者の意識も少しずつ変化したのではないだろうか。今後も保護者CSPを定期的に開催し利用者、保護者、職員が同じ関わりの中で支援できる体制を築いていく。

10月より、チャイルドノートを使用し、利用者さんとの日々の関わりでどのくらい効果的な褒め方、予防的教育法実践しているかを数値化し、支援する側がどのように利用者に関わっているかを見える化することができ、どの部分で効果的な褒め方が足りないのかを把握し、次に生かすことが出来た。

グループを3つに分ける事を継続して行った。構造化された中で職員のリーダー、サブリーダー、アシストの徹底を図り、そして先頭・中間・最後の支援を通して安全に配慮し利用者の方々に行き届いた支援ができた。グループ化により職員間の連携が深まった。

地域とのかかわりでは、丘珠南町内会の夏祭りに今年も職員が参加。今年度も近隣住民宅の除雪要請で利用者さんと除雪を行った。

また非常災害時に備え、毎月の防災訓練、総合避難訓練（年2階）、災害時避難訓練（伏古北小へ避難）、白石防災センター見学等で、防災時の啓蒙に努める事を徹底した。

今後も地域の方々と学校、町内会と連携し、より地域に開かれ安心、安全に配慮されたジャンプレッツを目指す。

34.ハーベストガーデン（生活介護）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
計	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
前年度	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	489	511	556	527	498	527	536	533	501	514	499	552	6243
前年度	526	522	587	582	529	525	591	529	525	547	549	575	6587

17. 評価と展望

今年度は、地域で当たり前の生活する為にどのようなスキルが必要か考えて、1人1人に沿った支援計画を立てて活動を行ってきた。SSTを行う事で、社会スキルの向上がはかれたと感じる。外で活動することも多く、新しいマニュアルを作りみんなで確認してから活動に入る事ができた。行事では利用

者さんを中心にルールを決めて、職員が少ないサポートでも活動を進めることができた。そして一人一人が目標を達成する事で、良い結果としての外出や外食を楽しんでいた。ジャンプレッツやグループホームと連携をはかり、同じ支援を行うことでスキルアップに繋がったと感じる。

店舗としてはランチや子ども食堂を提供する事で地域の方々の役にたっていると感じる。パンも宣伝する事でより多くの方に来店していただけるように取り組んでいく。

2017年度は、豊かな生活とは何かを考え続けていきたいと思う。活動もマンネリ化するのではなく、よりよい生活を送る為に必要なことを常に改善しておこなっていく。利用者さんの強みを見つけ伸ばしていけるような支援を行っていく。そのために社会スキルを練習し身につけ、社会で対応していく力を身につけていく。CSPを全職員、パートさんが使えるように今後も勉強していく。

店舗ではランチや子ども食堂などを継続して行い、地域の困っている方々でも入りやすい店舗づくりを目指していく。地域で当たり前前に生活していく大前提を目標に、全ての作業、活動に取り組んでいく。

35. ホワイトハウス（共同生活援助）

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	31	32	32	32	32	33	33	33	33	37	37	37	33.5
北区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
西区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
豊平区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
清田区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
計	41	41	41	41	41	42	42	42	42	46	46	46	42.6
前年度	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	114 7	113 6	116 2	120 2	110 8	119 6	1225	1210	1199	1223	1221	1360	1438 9
前年度	114 9	114 9	117 3	120 0	112 7	111 8	1197	1148	1126	1133	1131	1177	1382 8

17. 評価と展望

・2016年度はサテライトが2箇所と、女性ホーム「サンタローザ」が新設されて、9ホームで合計46名の入居者が地域で暮らしている。

・利用者の自己決定や自己選択を尊重する事を第一に支援を行なった。

・月に1回CSP勉強会を行なう事で支援員のスキルアップを図り、日々効果的な褒め方や予防的教育を用いて利用者の支援に努めてきた。

・ジャンプレッツやハーベストとケース会議などで情報を共有して利用者への支援の意思統一を図っていった。

・引き続き、利用者の要望を汲み取りながら居宅事務所と連携をして買い物や余暇活動等に行く機会を作っていく。

・キャンプなどの戸外活動においても通所と蜜に連携をして、楽しく豊かな生活をおくれるように支援していく。

36. ガブリエルホーム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
一時保護	0	0	0	0	2	4	2	1	1	0	0	0	0.83
計	6	6	6	6	8	10	8	7	7	6	6	6	6.83
前年度	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	180	186	180	186	198	212	217	210	191	186	168	186	2300
前年度	180	186	180	186	186	180	186	180	186	186	174	186	2196

17. 評価と展望

前年度同様6名でスタートした。4月に小学校入学と進級・中学生進級・高校生は進級をした。7月には、ファミリーホーム北海道研究大会が当別町中小屋小学校で開催され、子どもたちも参加し、中小屋小での活動を楽しんだ。また、道内各地から集まったファミリーホームの子どもたちとも交流出来た。

措置延長の女兒は、4月からハーベストガーデンに通所し、グループホームが9月に空いたため措置解除となった。その後すぐに中2の女兒が措置されて新しい生活が始まった。9月から12月まで一時保護の子どもが複数入居したため、子ども同士の関係性や発達状態によって配慮する場面が多くCSPを使ってチームでかかわる場面も多かった。3月には、高校生と中学生が卒業して4月から新たな道へチャレンジする。また高校生の女兒は措置延長が決まり今後の進路について話し合っていく。

次年度は、6名の措置児童でスタートしそれぞれ入学、進級する。6歳から18歳までの幅広い年齢層で、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにしていく。居宅介護と移動支援の利用も引き続き利用していく。職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育していく。

37. ベーテルホーム

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
措置	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.08
計	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	5.08
前年度						4	4	5	5	5	5	5	4.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	150	144	142	155	155	150	150	150	155	155	140	163	1809
前年度						120	120	141	155	155	140	140	971

17. 評価と展望

5月には新社会人になった子どもが法人のグループホームに入所した。2名が高校に入学し、はじめは登校が難しく、休みがちなことが多かったが、ガブリエルホームやその他事業所の男性職員の協力で送迎で通えるようになり、進級もできた。精神的に不安定になったり、暴力があったが、ガブリエルホームやその

他事業所の男性職員の協力で気持ちを落ち着かせることができ、徐々に生活も落ち着いて送ることができてきている。そしてその都度CSPをつかって効果的にほめることによって適応行動が多くなり、暴力も減り、自分で気持ちを整理できることがありました。3歳から18歳までの幅広い年齢層で、また、発達段階も違うので児童の状況に合わせて、引き続きCSPを使いながら適切な関わりが出来るようにして行く。居宅介護と移動支援の利用も定着しており、引き続き利用して行く職員が研修会に積極的に参加し、むぎのこ・学校・児童相談所・クリニック等と連携しながら養育して行く。

38.居宅介護事業所 むぎのこ

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

居宅介護

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	125	128	127	129	131	129	134	131	130	132	130	128	129.5
北区	22	23	23	23	23	22	21	21	24	23	22	21	22.3
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2.25
南区													
白石区													
豊平区													
中央区			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8
手稲区	1	1	1	1	1								0.4
帯広市													
計	151	156	156	158	159	155	159	156	158	159	156	153	156.3
前年度													

行動援護

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	39	40	40	40	41	40	41	42	41	40	39	40	40.25
北区	10	10	10	10	10	10	12	12	11	11	11	11	10.6
西区													
厚別区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南区													
白石区													
豊平区	1	1	1	1	1	1	1	1	1				0.75
中央区							1	1	1	1	1	1	0.5
手稲区	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1.41
帯広市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	54	55	55	55	56	54	58	59	57	55	54	55	55.58
前年度													

移動支援

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	69	65	62	64	63	64	63	64	62	63	63	62	63.6
北区	4	4	4	4	4	4	4	4	5	4	5	5	4.25
西区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
厚別区													
南区													
白石区													
豊平区													

中央区			1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.8
手稲区														
帯広市														
計	74	70	68	70	69	70	69	70	69	69	70	69	69	69.75
前年度														

(2) 利用延べ人数
居宅介護

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	639	596	619	546	524	504	573	580	480	521	548	584	6714
前年度													

行動援護

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	79	92	85	90	82	59	62	52	37	53	52	60	803
前年度													

移動支援

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	226	254	245	208	120	225	213	197	179	133	231	219	2450
前年度													

17. 評価と展望

・CSPの研修を毎月行い、利用者さんとのより良い関係を作って行けるようにしていきました。

・各部署が集まって支援会議を行う事で、利用者さんの情報を共有でき、ヘルパーの支援内容の方向性が決まった。

・サービス提供責任者の時期候補者二名を登録した。

・平成30年4月以降、行動援護のサービス提供を行う場合、養成研修の終了が必要となったので15名が受講予定です。

39. むぎの子ども相談室

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	260	261	263	263	263	263	264	264	264	264	266	269	22.4
北区	92	93	93	93	93	93	93	93	93	94	94	96	8
西区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.1
白石区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0.1
豊平区	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.1
中央区	1	1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	0.3
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0.2
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.1
措置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	357	359	363	363	363	363	364	364	366	367	369	375	31.3
前年度	254	269	282	291	298	302	306	312	321	322	323	357	29.8

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	28	28	27	27	32	27	34	41	37	27	24	97	429
前年度	34	18	19	22	29	22	27	31	27	26	14	84	353

17. 評価と展望

- ・子どもを対象とする、障害児相談支援を中心に行った。
- ・初めて、受給者証を取得するために、サービス等利用計画案を利用するニーズが増えてきた。
- ・児童発達支援事業、放課後等デイサービスを利用する際に、どのように探したら良いかという問い合わせが増えてきた。
- ・受給者証の更新のためのサービス等利用計画案の作成の人数が多く、担当者会議、本計画へという流れが滞ってしまうため、対策が必要である。
- ・出産、パニック等、家庭のニーズに合わせて、ショートやヘルパーの申請、変更を素早く行うようにした。
- ・地域支援と連携し、他市町村からの転入の受け入れを、その地区のデイサービスや相談支援事業所と連絡をとり、スムーズに札幌のサービスに引き継げるように行った。
- ・計画相談の手続きとして、①保護者が区役所に申請に行く、②申請後、計画相談、という流れが保護者の方で理解していない方がいるので、まずは保護者が区役所に申請の手続きを行うことを伝えている。
- ・家族が区役所の申請が難しい場合には、代理申請を行い、サービスの継続がスムーズに行くようにした。
- ・地域療育等支援事業と連携し、幼稚園、保育園で発達の心配のある子が児童発達支援事業を利用するまでをサポートした。
- ・家族支援が必要な家庭は、通っている事業所、委託のセーブネスとも連携しサポートしている。

40. 相談室セーブネス

1. 施設利用状況

(1) 利用契約者数

(単位 人)

区市町村	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
東区	366	373	390	396	408	426	434	441	446	461	475	494	426
北区	58	59	60	62	62	63	64	65	65	65	65	66	63
西区	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
南区	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
白石区	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
豊平区	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2
中央区	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
手稲区	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	2
措置	7	7	7	7	7	7	7	7	7	8	8	9	7
計	454	463	482	490	502	521	530	539	544	560	574	599	521
前年度	265	272	277	288	296	315	321	328	336	339	346	355	312

(2) 利用延べ人数

(単位 人)

月	4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	515	499	553	543	544	628	632	635	544	683	740	1036	7552
前年度	271	245	358	387	287	374	487	487	458	416	485	665	4920

12. 評価と展望

- ・障がい種別に関係なく、札幌市の障がい児・者又は家族の日常生活の相談、金銭管理、福祉サービス、就労支援、精神的支援に訪問、来所、電話、メールで応じた。
- ・各種福祉サービス申請に関わる援助をし、区役所、児童相談所、教育相談、病院、学校、法律事務所

- などの同行支援等を行った。
- ・計画相談として、サービス等利用計画の作成をした。
 - ・札幌市自立支援協議会、札幌市自立支援協議会東区部会に参加した。障がい有無に関わらず、互いに理解し、共生できる地域を目指すことを目的に研修等を行った。
 - ・関係機関との連携で、要保護家庭や保護者に障がいがある家庭、子どもに障がいがある家庭への支援を行った。
 - ・地域支援員の委託を受け、保育士さん等と協力し、民生児童委員、福祉協力員の方と一緒に地域に浸透するよう活動した。民生委員からの相談ケースもでてきており、連携することができた。
 - ・今後も本人主体の相談を心がけ、人権を尊重した支援を行う。児童発達支援センター、児童相談所、病院、まあち、保健センター、学校等の関係機関と連携し、本人そして家族を大事にする相談室を目指したい。

41.むぎのこ発達クリニック

1. 施設利用状況

- ・1年間の受診者数 11,324人 1日平均42.9人
 (紹介状：250通 特別児童扶養手当診断書：414通
 国民年金診断書(精神障害用)：80通 福祉手当診断書：59通
 自立支援意見書：49通 精神通院医療診断書：11通)
- ・インフルエンザ予防接種 804人
- ・定期・任意の予防接種(定期接種：326人 任意接種：5人)

2. 健康管理業務

(1) 医療体制

- ・通常の診療体制が、その月によって生じる体制変更の内容は、むぎのこ掲示板とジャンプレッツに掲示している。その月によって掲示の遅くなる時があったので、前月の終わり頃に貼りだすようにしていく。また、クリニックだよりのお知らせ欄には、確実に記載していく。
- ・療育中のけがにおいては、診療を最優先にして即時に対応した。
- ・特定の整形外科とは、今後も協力いただけるよう、日頃の連携を大切にしていた。

(2) 健康管理

- ・職員の健康診断を、早期に済ませれるようスケジュールに沿って確実に受けれる手配を手早くした。
- ・秋には、法人全体の健康診断状況や結果をチェックして、必要時個別に対応した。
- ・各事業所の感染対策、衛生管理等の意識付けをタイミングをみて行った。
- ・市内の感染症や法人内の罹患状況を把握して、できるだけ迅速に対応して蔓延防止に努めた。

3. 施設設備管理業務

- ・セコムに引き続き依頼して、防犯対策を行った。
- ・設備の点検・補修等は、札幌住宅にすぐに対応していただいた。
- ・施設周囲の点検・整備はこまめに行い、近隣とのコミュニケーションの目的としても意識して行った。

4. 防災対策

(1) 防火管理者の状況

職名	事務員	氏名	田村美智子	選任届出年月日	H25. 2. 1
----	-----	----	-------	---------	-----------

(2) 消防計画の状況

当初届出年月日	H25. 2. 1	最終変更届出年月日	H29. 5. 15
---------	-----------	-----------	------------

(3) 消防設備等の点検状況

区分	点検の箇所等			
	誘導灯、警報設備、消化器		避難器具、非常電源配線、配線	
点検年月日	H28年7月1日	H29年1月31日※	年月日	年月日
消防署への報告	(有) ・ 無		整備点検記録の有無	(有) ・ 無

※届け出は7月のみ年1回

(4)所轄消防署の立入検査状況

検査の有無	有 ・ 無
立入検査年月日	
改善指示事項の有無	有 ・ 無
改善指示事項の内容	
上記の改善内容	

(5)避難場所の状況

第1次避難場所		第2次避難場所	
予定地	栄地区センター	予定地	日の丸公園
施設からの距離	100m	施設からの距離	400m
予定地までの所要時間	4分	予定地までの所要時間	10分

(6)非常災害に対する訓練の状況

実施年月日	実施訓練内容	実施年月日	実施訓練内容
28/4/25	避難・消火・通報・救出・その他	28/10/24	避難・消火・通報・救出・その他
28/5/30	避難・消火・通報・救出・その他	28/11/28	避難・消火・通報・救出・その他
28/6/27	避難・消火・通報・救出・その他	28/12/19	避難・消火・通報・救出・その他
28/7/25	避難・消火・通報・救出・その他	29/1/23	避難・消火・通報・救出・その他
28/8/29	避難・消火・通報・救出・その他	29/2/27	避難・消火・通報・救出・その他
28/9/26	避難・消火・通報・救出・その他	29/3/27	避難・消火・通報・救出・その他

※通報は8月の総合訓練のときのみ119番しました

(2) その他の防災対策

- ・ 年2回、エアコン清掃
- ・ 各部屋の上部棚の整理整頓
- ・ 2階スライド式扉の蝶番の清掃・調整

5. 職員配置状況

(人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
管理者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医師	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
診察補助者	常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
診察補助者	非常勤	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
療法者	常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
療法者	非常勤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
事務員	非常勤	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
合計		16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16

6. ボランティアの受入

- ・ 特になし

7. 実習生・介護等体験の受入

- ・ むぎのこ実習生に対して、クリニックでの各種療法や親子教室の見学など、クリニックの位置づけを通して、依頼時には随時対応した。

8. 障害者自立支援法による事業の整備

- ・ むぎのこ利用児・者の他にも、福祉資源を有効に活用できるよう情報提供と、必要時診断書および意見書の作成・調整・相談を行った。

9. 人事労務・給与制度等(全事業共通)

人事労務管理	異動事項特になし
給与制度	・ 福祉職員処遇改善助成金による処遇改善の実施 ・ 最低賃金改定に伴い時間給を改善 ・ みなし労働制を導入
職員福利厚生	・ 職員福利厚生の充実のため、パートタイム職員も含め、福利厚生センター(ソエルクラブ)への加入を促進した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員に対する定期健康診断を実施した。 ・腰痛検査を実施した（直接処遇職員）。
--	---

10. 職員研修

(1) 法人・事業所内研修

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
3/31～4/1	むぎのこ	法人研修	名

日時	主催者	研修会名称	参加職員数
6/9.10.11	日本作業療法士会	第50回日本作業療法士学会	2名
7/16	一般社団法人全国児童発達支援協議会北海道ブロック	CDSJapan 北海道ブロック研修会	3名
8/29.30.31	北海道作業療法士会	北海道作業療法士会認定会員研修	1名
9/25	北海道臨床心理士会	子ども・家族・地域への心理臨床	2名
10/3.4		秋田オリブ園視察	1名
10/8	さっぽろ子どものきこえ相談ネットワーク	人工内耳装用児において大切にしたいこと	1名

11. 諸会議の開催

会議名	定例開催日	開催回数		参加職種	参加人数	参考事項
		定例	臨時			
全体会議	月1回	12回	0回	クリニック全職員	7～8名	

12. 財務・事務管理(全事業共通)

情報公開	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所に事業・法人の報告・計画、決算・予算等を開示した。 ・ホームページを全面更新し、情報発信を強化した。 ・後援会と連携し、日常の様子を公開に努めた。
個人情報保護と共有	<ul style="list-style-type: none"> ・電子データを外部メディア等に複写すること等の禁止を徹底した。 ・電子データは専用サーバーに保存し、職員のみVPN接続で共有した。
苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情処理要綱により、各事業が迅速に対応した。
業務の効率化・コスト削減	<ul style="list-style-type: none"> ・本部配置職員（パートを含む）を増員し、各事業の共通業務を一元管理した。 ・各事業所のパソコンを随時更新・追加し、業務の効率化を図った。
契約の公正・透明性の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約は担当職員によって公正に契約した。 ・経理系契約は入札を含め、経理規程を遵守した。
事務管理の適正化	<ul style="list-style-type: none"> ・法人職員と各事業所事務担当職員との連携を図った。
第三者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価は実施していない。

13. 苦情内容及び結果の公表

月日	主な苦情内容	対応及び解決方法
月		

14. その他特記事項

- ・法人内の医療事業としての意識をもって、むぎのこ年間スケジュールにより沿った連携がとれたと思う。今後は、より具体的な内容・意識を持って連携がとれればと思う。

15. 評価と展望

・平成28年度作業療法業務報告

作業療法士 数田真弓 大坪光保 松田幸恵 芦名知香枝

1. 障害児リハビリテーション

運動機能面（粗大動作・巧緻動作・協調運動など）・行動面・情緒面・認知面等に困難のある子どもについて、医師の指示のもと評価し、1回40分～60分、週1回または2

週間に1回、月1回の設定で作業療法（個別訓練）を実施した。

数田 50 例 大坪 663 例 松田 478 例 芦名 34 例

2. 親子教室

午前：週2回、午後：週4回、未就園児から市内の保育園・幼稚園に通っている未就学児までを対象とし、親子教室（クリニック母子支援事業）を、心理士、保育士、看護師とともに実施した。

3. むぎのこ発達支援センターとの連携

毎週月曜日、児童発達支援事業開所時間と、火・水・金曜日の14:30～15:00まで、センターの重症心身障害児クラスパンジー組に所属し、通園児らの運動機能・生活技能・認知技能の獲得、維持、向上を図るためそれぞれ個別に関わり、発達支援を行った。

4. クリニック他職種との連携

医師、心理士、言語聴覚士、看護師と、都度、対象者についての報告・相談を行い、毎月のクリニック全体会議の中で情報交換をし他職種とのより円滑な業務連携が図られるよう努めた

・平成28年度言語聴覚業務報告

言語聴覚士 矢田 麻貴

I. “言語聴覚士業務計画”に基づく実施報告

① 言語評価

医師の指示の下、コミュニケーションに関する客観的ならびに主観的評価を実施し、親への説明、相談を行った。評価後は必要に応じて指導へと移行した。

② 言語指導

28年度末時点での言語聴覚療法対象児の総数は54名（むぎのこ利用児・外来含む）であった。子どもの状態に応じて、40分間の個別指導を主とした言語指導、構音（発音）指導、AAC（拡大・代替コミュニケーション）指導、摂食指導を行った。定期的に、医師を交えて親への内容・経過報告、方針再検討等の機会を設けた。

※3月で終結また新規開始予定児も含む。

③ 摂食指導

従事した対象児は2名。内容は一部評価および食事介助が中心であった。また必要に応じて嚥下機能向上を目的に間接訓練や介助者へのアドバイスを実施した。

以上

・平成28年度 心理支援業務報告

臨床心理士 吉村 実保

H28（2016）年度の心理士の体制は、非常勤臨床心理士：秋田有紀子・ト部洋子・

加藤香子・吉村実保 非常勤心理士：伊藤詩菜・水上真理子 6名が勤務した。

① 個人心理療法

心理療法の方法は、各セラピストの専門性により、実際の行動の改善を目的とするアプローチ（SST、ロールプレイ、認知行動療法／秋田・伊藤）、心の中の対人関係の改善を目的とするアプローチ（精神分析的な心理療法、来談者中心療法、プレイセラピー／ト部・吉村）、トラウマに焦点をあてた対症療法を目的としたアプローチ（水上）など様々あるが、セラピストは個々のクライアントのニーズや問題を

十分考慮した上で、そのクライアントに適した支援を行った。

ト部は、5名に実施した。内容は、遊戯療法5名と母親への子育て支援も5名であった。

秋田は、7名に実施した。内容は、認知行動/遊戯療法2名、支持的心理/遊戯療法5名だった。

水上は、10名に実施した。内容は、力動的心理療法やトラウマ療法だった。

伊藤は、4名に実施した。内容は、心理療法2名、遊戯療法2名だった。

吉村は、9名に実施した。内容は、SSTを含めた支持的遊戯療法9名だった。

合計 35 ケース

②心理査定

各種（発達・知能・心理）検査は、子ども【新版K式発達検査、WISC-III/IV、WPPSI、田中ビネー知能検査、描画をはじめとした心理検査 etc】、成人【WAIS-R、田中ビネー知能検査、ロールシャッハ・テスト etc】を実施した。

a) 新版K式発達検査

秋田（15）、ト部（20）、伊藤（71）、吉村（166）

合計 272 ケース

b) その他の発達検査（遠城寺式・乳幼児分析的発達検査 etc）

伊藤（5）

合計 5 ケース

c) 田中ビネー知能検査（全訂版、V）

秋田（19）、ト部（13）、伊藤（51）、加藤（6）、吉村（174）

合計 263 ケース

d) ウェクスラー式知能検査（WISC-III/IV・WPPSI・WAIS-R）

秋田（12）、ト部（7）、伊藤（33）、加藤（3）、水上（2）、吉村（71）

合計 128 ケース

e) 質問紙法による心理検査（MMPI, YG, TEG, MAS etc）

秋田（3）、吉村（11）

合計 14 ケース

f) 投映法による心理検査（HTP, PFスタディ, 風景構成法, バウム, ロールシャッハ etc）

秋田（2）、伊藤（1）、吉村（19）

合計 22 ケース

g) 神経心理学的検査（フロスティック視知覚発達検査）

吉村（5）

合計 5 ケース

③集団精神療法

方法はそれぞれの集団の特徴を考慮し、SST、ロールプレイ等の認知行動療法や集団プレイセラピーを組み合わせて実施した。

今年度実施した小集団は、合計10グループであった（隔週1回40～50分）。

内容は、センターぞう組：4グループ（4人/秋田、4人/ト部、5人/水上、6人/吉村）

事業ライオン組：3グループ（5人／伊藤，11人／加藤）
 事業シーランチ組：3グループ（5人／秋田，7人／水上，5人／吉村）

42.札幌市障がい児等療育支援事業

1. 施設利用状況

・訪問療育－12件，外来療育－0件，施設支援－266件，計278件

2. 支援業務

実施地域：札幌市全域，

内 容：訪問療育－家庭を訪問し、生活や育児に繋がる相談や訓練

外来療育－外来の方法で、生活や育児に繋がる相談や訓練

施設支援－関係機関に対して、療育に関する技術支援や情報提供

4. 評価と展望

- ・札幌市内全域を対象に訪問療育、施設支援を実施した。
- ・相談者、施設のニーズに合わせ、細かく専門支援を実施した。
- ・支援ニーズに対し、専任職員が不足し、増員が必要である。

43.当別町子ども発達支援センター発達支援専門職員派遣業務

1. 施設利用状況

(1) 支援回数

(単位 人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
合計	1	1	1	1	0	0	1	0	1	1	0	1	9
前年度	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

3. 評価と展望

- ・当別町子ども発達支援センターに対し発達評価および専門指導を積極的に実施した。
- ・当別町子ども発達支援センターのニーズに合わせ、細かく、柔軟に専門支援を実施した。

44.当別町職員指導業務

1. 施設利用状況

4. 評価と展望

- ・利用児童についての解決すべき課題を把握し、心身の状況、希望及びその置かれている環境を踏まえ、日常生活等の目標及び、当該目標を達するため具体的な支援内容等の個別支援計画の作成を行った。
- ・相談者の意志を尊重し、置かれている状況や環境に配慮の上、児童の能力や特性を踏まえて、地域において自立した生活ができるよう相談支援計画を作成し、関係機関との連携等を積極的に行った。
- ・乳幼児健診及び各関係機関でのケース会議に積極的に参加し、電話等での発達や子育てに関する相談やアドバイスを行った。